

教育理念・目的・目標、卒業時の到達目標

<教育理念>

本校は生命の尊厳と個人の尊重を基盤とし、変化する社会状況に対応し得る豊かな人間性と科学的思考を養い、看護の使命と責任を自覚し、東胆振圏の保健医療福祉に貢献できる看護の実践者を育てる。

さらに、看護の専門職業人として生涯にわたる自己学習力と主体的に考え判断できる力を培う教育をめざす。

<教育目的>

看護師として必要な知識・技術の修得と豊かな人間性の涵養をはかり、地域医療に貢献できる人材を育成する。

<教育目標>

1. 看護の対象を全人的に理解し、その人らしい生活を支援するための基礎的能力を養う。
2. 対象の状況を的確に判断し、根拠に基づいた看護を実践するための基礎的能力を養う。
3. 対象の尊厳と権利を尊重し、倫理に基づいた看護を実践するための基礎的能力を養う。
4. 保健医療福祉チームの一員として、協働・連携するための基礎的能力を養う。
5. 専門職として、自己研鑽していくための基礎的能力を養う。

<卒業時の到達目標>

1. 対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解し、その人らしい生活を支える看護がチームとともに実践できる。
2. 対象の健康状態や生活の反応をとらえ、健康課題の解決をめざした看護が実践できる。
3. 対象の尊厳と権利を擁護した行動がとれる。
4. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割と連携・協働のあり方について説明できる。
5. 課題解決のために主体的に行動・学習できる。

学年目標

教育目標	1年次目標	2年次目標	3年次目標
1. 看護の対象を全人的に理解し、その人らしい生活を支援するための基礎的能力を養う。	①人間を生物学的な側面から説明できる。 ②人間の精神のしくみやはたらきを説明できる。 ③看護の対象を生活者として理解できる。	①人間の成長発達と生活の特徴が説明できる。 ②対象の価値観や信条、望む生活について理解できる。	①対象を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解できる。 ②その人らしい生活を支える看護がチームとともに実践できる。
2. 対象の状況を的確に判断し、根拠に基づいた看護を実践するための基礎的能力を養う。	①健康と障害について理解できる。 ②看護技術の目的・必要性が理解でき、指導のもと安全・安楽な方法で実施できる。 ③看護実践のプロセスが理解できる。	健康課題を持つ対象の状況を解釈・分析し、対象に適した方法で看護が実践できる。	対象の健康状態や生活の反応をとらえ、健康課題の解決をめざした看護が実践できる。
3. 対象の尊厳と権利を尊重し、倫理に基づいた看護を実践するための基礎的能力を養う。	①対象の尊厳と権利が理解できる。 ②看護は倫理に基づいた実践であることが理解できる。	①対象の尊厳と権利を擁護した行動がとれる。 ②実践した看護を倫理的な視点から分析し、自己課題を明らかにできる。	①倫理的問題を明らかにし、現状でより良い方法を考え行動できる ②倫理的判断に基づいた看護実践ができる。
4. 保健医療福祉チームの一員として、協働・連携するための基礎的能力を養う。	①保健医療福祉チームの職種と役割、機能を理解できる。 ②保健医療福祉チームにおける看護職の役割が理解できる。 ③自己の責任を自覚した行動ができる。	①保健医療福祉制度と社会資源が理解できる。 ②自己理解・他者理解ができ、協調できる。	①保健医療福祉チームにおける看護師の役割と他職種との連携・協働のあり方について説明できる。
5. 専門職として、自己研鑽していくための基礎的能力を養う。	①専門職業人の責任が理解できる。 ②目的をもち学習に取り組むことができる。	探求的姿勢で継続的に学習に取り組むことができる。	①社会の変化や進歩を看護に関連づけて探求できる。 ②課題解決のために主体的に行動・学習できる。

看護学科 教育課程 単位数及び授業時間数

分野	科目名		単位数	時間数	分野	科目名		単位数	時間数				
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現法Ⅰ	1	15	成人看護学	成人看護学概論	1	15	成人看護学	成人看護学方法論Ⅰ	1	30	
		国語表現法Ⅱ	1	15		成人看護学方法論Ⅱ	1	30		成人看護学方法論Ⅲ	1	30	
		情報科学	1	30		成人看護学方法論Ⅳ	1	15		成人看護学方法論Ⅴ	1	30	
		心理学	1	30		小計	6	150		老年看護学	老年看護学概論	1	15
		英語	1	30		老年看護学方法論Ⅰ	1	30			老年看護学方法論Ⅱ	1	30
		文化人類学Ⅰ	1	15		老年看護学方法論Ⅲ	1	30			小計	4	105
		文化人類学Ⅱ	1	15		小児看護学	小児看護学概論	1			30	小児看護学方法論Ⅰ	1
	哲学	1	15	小児看護学方法論Ⅱ	1		30	小児看護学方法論Ⅲ	1	30			
	人間関係論	1	30	小計	4		105	母性看護学	母性看護学概論	1	30		
	文化芸術	1	15	母性看護学方法論Ⅰ	1	15	母性看護学方法論Ⅱ		1	30			
	生命倫理	1	15	母性看護学方法論Ⅲ	1	30	小計		4	105			
	家族論	1	15	精神看護学	精神看護学概論	1	30		精神看護学方法論Ⅰ	1	15		
	教育学	1	15		精神看護学方法論Ⅱ	1	30	精神看護学方法論Ⅲ	1	30			
	社会学	1	15		小計	4	105	看護の統合と実践	看護の統合Ⅰ	1	15		
基礎分野 合計	14	270	看護の統合と実践	看護の統合Ⅱ	1	15	看護の統合Ⅲ		1	30			
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ		1	15	看護の統合Ⅳ	1		30	看護の統合Ⅴ	1	30	
		解剖生理学Ⅱ		1	30	小計	5		120	専門分野合計	44	1,155	
		解剖生理学Ⅲ		1	30	臨地実習	基礎看護学		基礎看護学実習Ⅰ		1	40	
		解剖生理学Ⅳ		1	30			基礎看護学実習Ⅱ	2	80			
		生化学Ⅰ	1	15	地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	40					
		生化学Ⅱ	1	15		地域・在宅看護論実習Ⅱ	1	40					
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	15		地域・在宅看護論実習Ⅲ	2	80					
		微生物学	1	15		地域・在宅看護論実習Ⅳ	2	80					
		病理学	1	15		地域・在宅看護論実習Ⅴ	2	80					
		病態治療学Ⅰ	1	15	成人・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80					
		病態治療学Ⅱ	1	30	成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80						
		病態治療学Ⅲ	1	30	小児看護学	小児看護学実習	2	80					
		病態治療学Ⅳ	1	30		母性看護学	母性看護学実習	2	80				
		病態治療学Ⅴ	1	15	精神看護学		精神看護学実習	2	80				
病態治療学Ⅵ	1	15	看護の統合と実践	統合実習		2	80						
薬理学	1	30		臨地実習 合計	23	920							
小計	16	345	専門分野合計	67	2,075								
健康支援と社会保障制度	総合医療論Ⅰ	1	15	専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30					
	総合医療論Ⅱ	1	15			基礎看護学方法論Ⅰ	1	30					
	社会福祉Ⅰ	1	15			基礎看護学方法論Ⅱ	1	15					
	社会福祉Ⅱ	1	15			基礎看護学方法論Ⅲ	1	30					
	公衆衛生学	1	30			基礎看護学方法論Ⅳ	1	30					
	関係法規	1	15			基礎看護学方法論Ⅴ	1	30					
小計	6	105	基礎看護学方法論Ⅵ			1	30						
専門基礎分野 合計	22	450	基礎看護学方法論Ⅶ			1	30						
専門分野	基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1			30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30				
		基礎看護学実習Ⅱ	2			80	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30				
		基礎看護学実習Ⅲ	1			15	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30				
		基礎看護学実習Ⅳ	1			30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30				
		基礎看護学実習Ⅴ	1			30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30				
		基礎看護学実習Ⅵ	1			30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30				
		基礎看護学実習Ⅶ	1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
		基礎看護学実習Ⅷ	1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
		基礎看護学実習Ⅷ	1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
		基礎看護学実習Ⅷ	1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
		基礎看護学実習Ⅷ	1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
	小計	11	315	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30							
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30						
地域・在宅看護方法論Ⅱ		1	15	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30							
地域・在宅看護方法論Ⅲ		1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30							
地域・在宅看護方法論Ⅳ		1	30	基礎看護学方法論Ⅷ	1	30							
地域・在宅看護方法論Ⅴ	1	30	小計	6	150								
小計	6	150	総計	103	2,795								

学科進捗表

分野	科目名	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次		分野	科目名	単位数	時間数	1年次		2年次		3年次		
				令和7年度	令和8年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和7年度					令和8年度	令和9年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度		
				前期	後期	前期	後期	前期	後期					前期	後期	前期	後期	前期	後期	
基礎分野	科学的思考の基盤	国語表現法Ⅰ	1	15	○					専門分野	臨地実習									
		国語表現法Ⅱ	1	15		○					基礎看護学	基礎看護学実習Ⅰ	1	40		○				
		情報科学	1	30	○							基礎看護学実習Ⅱ	2	80		○				
		心理学	1	30	○						地域・在宅看護論	地域・在宅看護論実習Ⅰ	1	40	○					
	英語	1	30				○		地域・在宅看護論実習Ⅱ			1	40			○				
	文化人類学Ⅰ	1	15	○					地域・在宅看護論実習Ⅲ			2	80				○			
	文化人類学Ⅱ	1	15			○			地域・在宅看護論実習Ⅳ			2	80					○		
	哲学	1	15			○			地域・在宅看護論実習Ⅴ			2	80					○		
	人間と生活、社会の理解	人間関係論	1	30	○						成人・老年看護学	成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80			○			
		文化芸術	1	15		○						成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80				○		
		生命倫理	1	15				○			小児看護学	小児看護学実習	2	80					○	
		家族論	1	15				○				母性看護学	母性看護学実習	2	80					○
		教育学	1	15				○			精神看護学		精神看護学実習	2	80					○
		社会学	1	15				○				看護の実践と統合	統合実習	2	80					
基礎分野 合計		14	270						専門分野合計		67	2,075								
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	1	15	○				総計					535	495	460	505	645	155	
		解剖生理学Ⅱ	1	30	○										1,030	965	800			
		解剖生理学Ⅲ	1	30	○															
		解剖生理学Ⅳ	1	30	○															
		生化学Ⅰ	1	15	○															
		生化学Ⅱ	1	15			○													
	疾病の成り立ちと回復の促進	栄養学	1	15		○														
		微生物学	1	15		○														
		病理学	1	15		○														
		病態治療学Ⅰ	1	15		○														
		病態治療学Ⅱ	1	30		○														
		病態治療学Ⅲ	1	30		○														
		病態治療学Ⅳ	1	30			○													
		病態治療学Ⅴ	1	15			○													
	薬理学	1	30		○															
	小計		16	345																
健康支援と社会保障制度	総合医療論Ⅰ	1	15		○															
	総合医療論Ⅱ	1	15				○													
	社会福祉Ⅰ	1	15		○															
	社会福祉Ⅱ	1	15					○												
	公衆衛生学	1	30				○													
	関係法規	1	15						○											
小計		6	105																	
専門基礎分野 合計		22	450																	
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅰ	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅱ	1	15	○															
		基礎看護学方法論Ⅲ	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅳ	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅴ	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅵ	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅶ	1	30	○															
		基礎看護学方法論Ⅷ	1	30		○														
		基礎看護学方法論Ⅸ	1	30		○														
	基礎看護学方法論Ⅹ	1	30		○															
	小計		11	315																
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論	1	15	○															
		地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	30		○														
		地域・在宅看護方法論Ⅱ	1	15			○													
		地域・在宅看護方法論Ⅲ	1	30			○													
		地域・在宅看護方法論Ⅳ	1	30				○												
		地域・在宅看護方法論Ⅴ	1	30					○											
	小計		6	150																
	成人看護学	成人看護学概論	1	15		○														
		成人看護学方法論Ⅰ	1	30			○													
		成人看護学方法論Ⅱ	1	30				○												
		成人看護学方法論Ⅲ	1	30					○											
		成人看護学方法論Ⅳ	1	15					○											
		成人看護学方法論Ⅴ	1	30						○										
	小計		6	150																
	老年看護学	老年看護学概論	1	15		○														
		老年看護学方法論Ⅰ	1	30			○													
		老年看護学方法論Ⅱ	1	30				○												
		老年看護学方法論Ⅲ	1	30					○											
小計		4	105																	
小児看護学	小児看護学概論	1	30			○														
	小児看護学方法論Ⅰ	1	15				○													
	小児看護学方法論Ⅱ	1	30					○												
	小児看護学方法論Ⅲ	1	30						○											
小計		4	105																	
母性看護学	母性看護学概論	1	30			○														
	母性看護学方法論Ⅰ	1	15				○													
	母性看護学方法論Ⅱ	1	30					○												
	母性看護学方法論Ⅲ	1	30						○											
小計		4	105																	
精神看護学	精神看護学概論	1	30		○															
	精神看護学方法論Ⅰ	1	15			○														
	精神看護学方法論Ⅱ	1	30				○													
	精神看護学方法論Ⅲ	1	30						○											
小計		4	105																	
看護の統合と実践	看護の統合Ⅰ	1	15	○																
	看護の統合Ⅱ	1	15			○														
	看護の統合Ⅲ	1	30				○													
	看護の統合Ⅳ	1	30					○												
	看護の統合Ⅴ	1	30						○											
小計		5	120																	

教育課程の考え方

地域の保険医療福祉チームにおける一員として多職種と協働しながら、多様な人々と関係を築き、科学的・倫理的な看護を実践していくための基礎的能力を養う。また、多様でしかも急速に変化しつつある社会の中で、看護の質の向上をめざして研鑽できる基礎的能力を養う。

これらの能力を養うために、基礎分野、専門基礎分野、専門分野、統合分野でカリキュラムを構成する。

I. 基礎分野

専門基礎分野及び専門分野、統合分野の基礎となる分野で、科学的思考の基盤となる知識と、看護の対象を理解するうえで必要な知識を学ぶ。

II. 専門基礎分野

身体的・精神的・社会的側面から人間を理解し、観察力や判断力の基盤となる知識を学ぶ。また、健康や障害の状態に応じた支援のための知識として、保健・医療・福祉に関する基本概念、関係制度、関係職種の役割、協働・連携の必要性について学ぶ。

III. 専門分野

基礎看護学では、看護の概念や役割、看護実践の基礎となる知識・技術、および問題解決の方法などについて学習する。地域・在宅看護論では、地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、地域で療養する人々とその家族を多職種と協働しながら支援するための知識・技術・態度を学ぶ。各看護学では、成長発達に応じた各期の特徴とその健康上の課題を明らかにし、多様なニーズや特徴を踏まえ対象に応じた看護実践や、多職種と連携しながら切れ目のない支援を行うための知識・技術・態度を学ぶ。

臨床看護の実践では、既習の知識、技術を統合し、臨床判断能力を養い、臨床の実務に対応できるような看護の内容や方法を学ぶ。また、保健医療福祉チームの一員として協働・連携をするための知識・技術・態度を学ぶ。

教育課程全体構造図

看護の統合と実践			
成人看護学	老年看護学	母性看護学	小児看護学
精神看護学			
地域・在宅看護論			
基礎看護学			
専門基礎分野			
基礎分野			

主要概念

人間	<ul style="list-style-type: none">・人間は身体的、精神的、社会的に統合された存在である。・人間はかけがえのない生命をもち、尊厳及び権利を有する存在である。・人間は異なる人格をもつ。・人間は社会の中で他者と関係性をもちながら生活する存在である。・人間は常に成長発達し続ける存在である。
環境	<ul style="list-style-type: none">・環境は人間をとりまくすべてのものである。・環境は絶えず変化する。・環境は人間と相互に影響し合っている。
健康	<ul style="list-style-type: none">・健康は、疾病のあるなしに関わらず、身体的・精神的・社会的に調和がとれ、自分の能力を最大限に発揮できる状態である。・健康は社会的・文化的背景、個人の価値観により異なる。
看護	<ul style="list-style-type: none">・看護は健康の保持・増進・回復、安らかな死に向けて、その人らしく生活できるように援助することである。・看護は対象との人間関係を基盤とした相互作用のなかで展開される。
学習	<ul style="list-style-type: none">・学習とは、学習者ひとりひとりが自ら意味を構成していく過程である。・学習は、他者との相互作用を通じて行われ、自らの知識や考え方を組みかえていくことである。
教育	<ul style="list-style-type: none">・教育とは、学習者が自己成長できるように能力を引き出すことである。・教育は、教育者と学習者の相互作用で成り立ち、両者が共に成長していくことである。

教 科 外 活 動

目 的：教科外活動を通して主体性・創造性・協調性を養う

月	項 目	学 年			ね ら い
		1年	2年	3年	
4月	入 学 式	○			入学の承認をうけ、本校の学生としての自覚を持ち、学ぶ姿勢の動機づけをする。
	学年ガイダンス	○	○	○	各学年における学校生活が円滑に行われることを目的とし、学年の学習目的、内容、年間計画を理解する。
	新入生歓迎会	○	○	○	学生相互の親睦をはかる。
	健 康 診 断	○	○	○	自己の健康状態を認識し健康管理への意識を高める。
	市 内 見 学	○			苫小牧市及び周辺地域を知り、東胆振圏の見聞を深める。
5月	修 学 旅 行		○		医療に関する見聞を深めると共に、社会性を身につける。
	避 難 訓 練	○	○	○	防災への認識を新たにし、非常時の対処方法を理解し、非常時の態度・責任感を養う。
7月	地 域 交 流 会	○	○	○	地域との交流を図り、社会性を身につける。
9月	ス ポ ー ツ 大 会	○	○	○	学生間の親睦を図る。
11月	宣 誓 式	○	○	○	看護職を目指すものとして、改めて看護の意味を考え、決意を新たにす。
2月	卒業生を送る会	○	○	○	卒業を祝い学生間の交流を図る。
3月	卒 業 式	○	○	○	卒業認定をうけ、看護を担うものとしての決意を新たにす。在校生は残された学校生活を有意義に過ごす動機づけとする。
	H R	○	○	○	円滑なクラス運営を図る。

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表

科目	学年	単位	専任・非常勤	実務経験
人間関係論	1	1	非常勤講師	学校・企業で実務経験あり
教育学	2	1	非常勤講師	大学で実務経験あり
解剖生理学Ⅰ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
解剖生理学Ⅱ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
解剖生理学Ⅲ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
解剖生理学Ⅳ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
栄養学	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
微生物学	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病理学	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病態治療学Ⅰ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病態治療学Ⅱ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病態治療学Ⅲ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病態治療学Ⅳ	2	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病態治療学Ⅴ	2	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
病態治療学Ⅵ	2	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
薬理学	1	1	非常勤講師	薬局で実務経験あり
総合医療論Ⅰ	1	1	非常勤講師	病院で実務経験あり
総合医療論Ⅱ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
社会福祉Ⅰ	1	1	非常勤講師	施設で実務経験あり
社会福祉Ⅱ	3	1	非常勤講師	施設で実務経験あり
公衆衛生学	2	1	非常勤講師	保健所で実務経験あり
関係法規	3	1	非常勤講師	法律事務所で実務経験あり
基礎看護学概論	1	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅰ	1	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅱ	1	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅲ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅳ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅴ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅵ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅶ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅷ	1	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅸ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
基礎看護学方法論Ⅹ	1	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
地域・在宅看護概論	1	1	専任教員	病院で実務経験あり

科目	学年	単位	専任・非常勤	実務経験
地域・在宅看護方法論Ⅰ	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
地域・在宅看護方法論Ⅱ	2	1	専任教員	病院で実務経験あり
地域・在宅看護方法論Ⅲ	2	1	専任教員	病院で実務経験あり
地域・在宅看護方法論Ⅳ	3	1	専任教員	病院で実務経験あり
地域・在宅看護方法論Ⅴ	3	1	専任教員	病院で実務経験あり
成人看護学概論	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
成人看護学方法論Ⅰ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
成人看護学方法論Ⅱ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
成人看護学方法論Ⅲ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
成人看護学方法論Ⅳ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
成人看護学方法論Ⅴ	3	1	専任教員	病院で実務経験あり
老年看護学概論	1	1	専任教員	病院で実務経験あり
老年看護学方法論Ⅰ	2	1	専任教員	病院で実務経験あり
老年看護学方法論Ⅱ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
老年看護学方法論Ⅲ	3	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
小児看護学概論	2	1	専任教員	病院で実務経験あり
小児看護学方法論Ⅰ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
小児看護学方法論Ⅱ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
小児看護学方法論Ⅲ	2	1	専任教員	病院で実務経験あり
母性看護学概論	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
母性看護学方法論Ⅰ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
母性看護学方法論Ⅱ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
母性看護学方法論Ⅲ	2	1	専任教員	病院で実務経験あり
精神看護学概論	1	1	非常勤	病院で実務経験あり
精神看護学方法論Ⅰ	2	1	非常勤	病院で実務経験あり
精神看護学方法論Ⅱ	2	1	非常勤	病院で実務経験あり
精神看護学方法論Ⅲ	3	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
看護の統合Ⅰ	1	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
看護の統合Ⅱ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
看護の統合Ⅲ	2	1	専任教員・非常勤	病院で実務経験あり
看護の統合Ⅳ	3	1	専任教員	病院で実務経験あり
看護の統合Ⅴ	3	1	専任教員	病院で実務経験あり
合計単位数		66		

科学的思考の基礎

科目名	単位数	開講期	担当講師
国語表現法 I	1 単位(15 時間)	1 年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>看護師にとって「書く力」は必要不可欠なスキルである。書く力とは、単に文章を書くだけでなく、共有したい内容を相手へ正確にわかりやすく伝える力のことである。そのためには、まず日本語としての言葉の意味や使い方に関する知識をもち、どのように伝えると効果的かをしっかりと考え、読み手が理解しやすい形式を整えられるようになる必要がある。ここでは国語力の総合的向上のために、論理的に考え説明するために必要な基礎知識と、文章やレポートを書くための基本的技術やルールを学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的な思考と説明の方法がわかる。 2. 簡潔で明快な文章の書き方がわかる。 			
授 業 計 画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 論理的に考えるスキル 日本語のニュアンス：概念と発想法の種類を知ろう 2. 論理的に説明するスキル① 日本語のニュアンス：主張と接続詞の関係を知ろう 3. 論理的に説明するスキル② 日本語のニュアンス：論証の構造を知ろう 4. 相手を尊重して表現するスキル① 文書作成の基本：状況に応じた敬語を使おう 5. 相手を尊重して表現するスキル② 文書作成の基本：根拠を意識して表現しよう 6. 正しく分かりやすく伝えるスキル① 文書作成の実際：図形から考えよう 7. 正しく分かりやすく伝えるスキル② 文書作成の実際：道案内から考えよう 8. 正しく分かりやすく伝えるスキル③ 文書作成の実際：レポートを作成しよう 			<p>講義、演習</p> <p>講義、演習</p> <p>講義、演習</p> <p>講義、演習</p> <p>講義、演習</p> <p>講義、演習 グループワーク</p> <p>講義、演習 グループワーク</p> <p>講義、演習 グループワーク</p>
評価	<p>方法：小テストおよび課題レポート</p> <p>配点：100 点</p>		
テキスト	配布資料		

科学的思考の基礎

科目名	単位数	開講期	担当講師
国語表現法Ⅱ	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	外部講師
<p><ねらい> 1 年次の国語表現法Ⅰで学んだ基礎知識・スキルを活用し、論理的にレポート・論文を書く・読むスキルを修得する。</p> <p><到達目標> 1. 簡潔で明快な文章の書き方がわかる。 2. 論理展開を考えた文章が書ける。</p>			
授 業 計 画			学習方法
<p>1. ガイダンス 1-1 授業の進め方、評価の方法 1-2 論理、論法に関する基礎事項の確認</p> <p>2. 読解 1 2-1 文義を読み取る</p> <p>3. 読解 2 3-1 含意を読み取る</p> <p>4. 表現 1 4-1 文章構成法</p> <p>5. 表現 2 5-1 フォーマットに沿った言語表現</p> <p>6. 読解と表現との統合 1 6-1 データの言語化</p> <p>7. 読解と表現との統合 2 7-1 長文の摘録</p>			講義 グループ ワーク
評価	方法：小テストおよびレポート 配点：100 点		
テキスト	配布資料		

科学的思考の基盤

科目名	単位数	開講期	担当講師
情報科学	1 単位 (30 時間)	1 年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>社会のみならず、医療の現場においても情報（データ）はコンピューターによって処理されている。看護職も情報処理能力が要求されており、患者のデータ管理はもちろんのこと、電子カルテの時代の到来を迎えた今、コンピューターの操作ができなければ医療職の一員としての役割も果たせない。また、文献検索や看護研究をするにはコンピューターは不可欠なツールとなっている。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報とは何かを学び、情報の収集、整理、活用方法を理解する。 2. コンピューターの基本操作および Microsoft 社製 Office ソフトウェアを活用できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報科学の基礎：情報とは この講義で取り上げる情報科学の概要を理解する。特に、情報とシステム、社会と情報、看護学と情報とのかかわりについて理解する。 2. コンピューターの特徴と基礎知識 近年、急速に進歩している情報技術の現状とコンピューターの基礎的な事柄について学ぶ。情報のデジタル化、コンピューターの基本構成と動作、コンピューター技術の変遷、ネットワーク（インターネット）等について扱う。 3. コンピューターの操作と機能の説明 コンピューターを操作する上で前提となる基礎的な知識を学ぶ。また、具体的な操作方法として、OS（Windows）の基本的な操作方法について学ぶ。セキュリティ対応を含めたシステムの状態、OS のアップデート、ネットワーク接続等について理解する。 4. 文章作成の基本 Microsoft Word を使用した文書の作成方法について学ぶ。文章の構成および内容を考慮した図の扱い方、表組の方法、レイアウト調整、印刷方法等について演習を通して理解する。 5. 表計算の基礎知識と操作方法 Microsoft Excel を使用した表計算の方法について学ぶ。セルの概念、各種関数を用いた計算方法、レイアウト調整、文字の装飾、印刷方法等について演習を通して理解する。 6. プレゼンテーション資料作成の基本 聴衆の興味を引くスライドの構成方法とプレゼンテーションの基礎について学ぶ。また、Microsoft PowerPoint の使用方法、具体的なスライドの作成方法について演習を通して理解する。 7. 文献検索方法 看護研究における文献情報の検索、および WWW（World Wide Web）の情報検索手法について演習を通して学ぶ。 8. 情報に関する倫理 医療情報の取り扱いとプライバシー保護に関する基礎的な知識、および情報をめぐる倫理的問題について理解する。 9. 病院情報システム 病院情報システム、オーダエントリーシステム、医用画像システムの概要につい 			<p>講義 演習</p>

	て学ぶ。また、電子カルテシステム概念とその法的扱い、及び、システムのセキュリティ要件、病院における安全管理について理解する。	
評価	方法：演習課題、筆記試験 配点：100点	
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護情報学 医学書院	

科学的思考の基盤

科目名	時間数	開講期	担当講師
心理学	1単位 (30時間)	1年前期	外部講師
<p><科目のねらい></p> <p>対人援助を行うためには、援助の対象となる他者や、援助を行う主体（みなさん自身）である「人間」について理解することが重要である。本科目では、主に基礎心理学の分野の諸研究を通して、人の基礎的な心理的側面について理解を深めることをねらいとする。</p> <p><科目の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の心理的側面についての基礎知識を身につけ、人のこころの成り立ちやはたらきを知る ・心理学の基礎的知識を理解し、日常生活の身近な出来事と関連づけることができる 			
内 容			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>ガイダンス</u>：心理学とは 2. <u>感覚・知覚</u>：人は環境をどのように認知しているのだろうか？ 3. <u>学習</u>：人はどのように学習するのだろうか？ 4. <u>記憶</u>：人はどのように記憶するのだろうか？×2 5. <u>発達</u>：人のこころはどのように発達するのだろうか？ 6. <u>推論</u>：人はものをどのように考えるのだろうか？ 7. <u>バイアス</u>：人の考え方にどのようなクセがあるのだろうか？ 8. <u>社会的影響</u>：人は他者からどのような影響を受けるのだろうか？ 9. <u>感情</u>：人の気持ちはなぜ生じるのだろうか？ 10. <u>パーソナリティ</u>：「性格」とはなんだろうか？ 11. <u>知能</u>：「知能」とはなんだろうか？ 12. <u>文化</u>：こころは文化によって違うのだろうか？ 13. <u>ストレス</u>：ストレスはこころにどのような影響を及ぼすのだろうか？ 14. <u>研究法</u>：どのように「人のこころ」を調べるのだろうか？ <ul style="list-style-type: none"> ・各講義の冒頭で前週の質問回答や補足を行うため、講義時間数は前後する可能性がある ・授業の進行状況によって授業内容が変更される可能性がある 			講義
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・講義ごとのリアクションペーパー：30点 ・筆記試験：70点 		
テキスト	<p>書籍「マイヤーズ心理学」をベースに、「心理学 [第5版 補訂版]」（東京大学出版会）などの本を用いて授業を進めるが、購入の必要はない。なお、授業内容の理解を助けるであろう書籍は授業内で紹介する。</p>		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
英語	1 単位 (30 時間)	3 年次 前期	外部講師
<p><ねらい> 生の英語に触れ、聞く力、話す力をつける。さらに学習を通し、国際的な文化に触れる機会とする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 基本文法、文章の作り方を理解する。 2. 病気や症状、体の部位、薬の英単語を理解し、話す。 3. 診療科、病棟で使用する単語について理解し、話す。 4. リスニングを通して、話している内容を理解していく。 5. テーマに沿って、英語で話すことができる。 6. リスニングや発音練習をすることで、聞く力、話す力を高める。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自己紹介、質問への答え方 (質問ゲーム) 2. 基本文法、文章の作りかた 3. 病気の症状・体の部分・臓器の名称 4. いろいろな種類の薬、薬の内服の説明 5 ~ 6. 病院の部門の名称、病棟で使用する単語 7. リスニング <ul style="list-style-type: none"> ・医師の診察を受ける ・医師と看護師の会話 ・母親と子どもへの会話 ・入院手順 8 ~13. グループワーク (テーマ：禁煙、アルコール、運転、歯科、食事、リサイクル等) 14~15. リスニング練習、発音練習 			講義 グループ ワーク
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	講義ごとに資料を配布して使用する。		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
文化人類学 I	1 単位 (15 時間)	1 年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>地域の特徴を地理・歴史から学び、地域と地域に住む人々の生活の理解を深める。地理は歴史とも深く関わっている。苫小牧市の地理的な要因が歴史の流れにどのように影響を与えたかを学ぶことで、苫小牧の歴史の理解を深める。また、地理は人々の生活や文化、経済活動とも密接に関連していることを学ぶ。苫小牧の文化や社会構造を他の地域と比較しながら理解することで、文化と社会の理解を深める。そして、苫小牧の自然環境や気候、地形などの地理的な知識を活用して、苫小牧市の都市計画や交通、環境保護などの現実的な問題に対する解決策を考える。また、環境問題や自然災害への対応策を考える。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 苫小牧の地形や気候と開拓の歴史を理解する。 2. 苫小牧の産業の発展と文化・社会の変遷を理解する。 			
授 業 計 画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 自然環境の理解：苫小牧の地形や気候、主要な自然資源（樽前山やウトナイ湖）について学ぶ。 2. 苫小牧の歴史①発掘調査によって明らかになった苫小牧の昔の暮らしを学ぶ。 3. 苫小牧の歴史②江戸時代から現在にかけての苫小牧の歴史、まちの移り変わりについて学ぶ。 4. 苫小牧の歴史③苫小牧におけるアイヌ文化について地名や発掘調査から学ぶ。 5. 苫小牧市の産業：苫小牧の主要な産業の発展について学ぶ。 6. 苫小牧港の役割：苫小牧港の歴史・役割と苫小牧港が市の発展にもたらした影響について学ぶ。 7. 苫小牧市の概要と総合計画：苫小牧市を取り巻く社会情勢の変化を理解し、苫小牧市の未来の「まちづくり」の長期的な目標と計画について学ぶ。 8. 苫小牧市地域防災対策推進計画：苫小牧市の防災、災害応急対策計画、地震防災対策推進計画の概要について学ぶ。 			講義
評価	方法：レポート（各講義の学びのレポート＋終講後の最終レポート） 配点：100 点（各講義の学び 40 点、最終レポート 60 点）		
テキスト	配布資料		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
文化人類学Ⅱ	1 単位(15 時間)	2 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>自分の住む地域の文化を理解することは、自らの生活を理解する上で重要です。人間が生活を営むとき、そこには必ず文化があります。その文化は自らの価値観を決め、ものの良し悪しを判断する基準となります。このことは、看護の世界でも決して無縁なことではありません。世界のグローバル化が進む中、さまざまな文化で育った方々が患者として病院を訪れます。これからの看護の世界では、患者の価値観を理解しながら看護の仕事に就くことが求められます。</p> <p>文化人類学とは何かをはじめ、地域の文化、人間の本質的な文化などを幅広く学ぶことによって、文化とは何かを理解し、文化によって決定される価値観があることを学びます。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学とは何かを理解する。 2. 北海道の周辺諸文化を知り、アイヌ文化について学ぶ。 3. 人はなぜ服を着るのか「衣文化」について学ぶ。 4. 人はなぜ家に住むのか「住文化」について学ぶ。 5. 人は何を食べてきたのか「食文化」について学ぶ。 6. 通過儀礼とは何か、その意義は何かを学ぶ。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 文化人類学とは 2. 北海道の周辺諸文化 3. 現在に息づく先住民族文化 4. 衣文化（人はなぜ服を着るのか） 5. 住文化（人はなぜ家に住むのか） 6. 食文化（人は何を食べてきたのか） 7. 通過儀礼（人の一生） 1 8. 通過儀礼（人の一生） 2 			講義
評価	方法：レポート 配点：レポート 100 点		
テキスト	講義ごとに資料を配布する		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
哲学	1 単位 (15 時間)	2 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>看護の対象である人間理解には、人間とは何かを考えることが重要である。看護の対象理解のため、科目を設定した。今後、対象理解において向き合うことになるであろう問題を考える時間としたい。また、哲学的思考を養っていくことも重視したい。</p> <p>ここでは、看護師が患者と向き合うなかで陥りやすい「正しさ」をめぐるジレンマを考えるために、人間社会の歴史に不可欠な概念「正義」について他方面から考察する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の言葉で「倫理」とは何かを定義することができる。 2. 倫理的判断に不可欠な「正しさ」の概念に関する歴史的背景を説明できる。 3. 社会的正義を踏まえた倫理的判断の「正しさ」について意見を提示できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：倫理的な「正しさ」について 2. 「結果」と「動機」：どちらを取るべきか？ 3. 「分配」の正義：だれを優先すべきか？ 4. 「規制」の正義：どこまで/どこからダメなのか？ 5. 社会と「正義」の関係について 6. 「正義」の背景を考える 7. 「正義」の歴史を考える 8. 総括：あらためて「正しさ」を考える 			講義, 演習
評価	方法：講義時のレポート(毎回)および最終課題 配点：100 点		
テキスト	配布用講義資料を作成して使用する 参考文献などあれば、その都度講義中に紹介する		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当教員
人間関係論	1 単位 (30 時間)	1 年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>看護のすべては人と人との関係性で成り立っている。すなわち人間関係の構築が看護の基本的な考え方として捉えたうえで、看護師は患者、または関わり合う他者との関係性において互いに影響を及ぼす相互関係を理解し、そのための必要な知識・技能を身につけることが重要である。ここではカウンセリングの基礎を学び、実習を通して心身はいつでも一緒に同時に機能していること、すなわち人間関係が成り立っているとき、心の動きは時間とともに変化していくことを実感し、更には人間として一層の成長をし続けることを目指す。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間観、人間関係論を学び、人間関係について考察し、理解する。 2. カウンセリング理論・実習をとおりコミュニケーションの能力を養う。 3. 人間関係構築のための基礎となるコミュニケーションとスキルの向上を高める。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間観、個人対個人、集団での人間関係 2. カウンセリング①カウンセリングとは 心理療法的カウンセリング 3. カウンセリング②カウンセラーの条件 ロジャーズの3条件について 4. センサリー・アウェアネス(体験実習) 自己の覚醒を目指して 5. 集団の中での自己実現・レポート作成 6. 人間関係構築のスタート「第一印象」について 7. 自己理解・他者理解 ワーク「ジョハリの窓」を通して 8. コミュニケーションスキル「傾聴」 9. コミュニケーションスキル「アサーション」① 10. コミュニケーションスキル「アサーション」② 11. 社会人に求められるビジネスマナー① 12. 社会人に求められるビジネスマナー② 13. 医療現場のコミュニケーション①事例検討 14. 医療現場のコミュニケーション②ロールプレイ 15. 人間観 自身のキャリア形成を考える 			<p>講義 演習</p> <p>講義 演習 グループ ワーク</p>
評価	<p>方法：レポート 配点：100 点</p>		
テキスト	<p>配布資料 医療・福祉現場のコミュニケーション (小菌 真知子、井原くみ子、櫻田 毅 著)</p>		
参考図書	<p>心身一如のニュー・カウンセリング (伊東 博 著) カウンセリング『第四版』(伊東 博 著) 人を知る私を知る―患者ひとりひとりのケアのために― (吉田 哲 著) 暮らしの中のカウンセリング (西光 義敏 著)</p>		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
文化芸術	1 単位 (15 時間)	1 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>文化芸術を学ぶことで、創造性や表現力・感性を養うとともに、相互に理解し、尊重し合い、多様性を受け入れることができる心豊かな人間性を育みたい。</p> <p>音には多くの意味がある。ことば、音楽、物音、すべてに必要なものは 人としての感性である医療の中に含まれるアートとして様々な領域における看護者の役割について、また多分野への理解と協働する人間力を育てたい。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 芸術としての音楽、及び臨床現場で扱われる音楽について理解する。 2. グループでの発表を通じ自己内省、自己表現への感性を磨き、チームケアに必要な能力を養う。 			
授 業 計 画			学習方法
<p>1～2. 芸術概論 アートとしての音楽</p> <p>3～4. 芸術概論 アートとしての音楽</p> <p>5. 音楽と言葉・文学</p> <p>6. 音楽と音楽療法</p> <p>7～8. 感性トレーニング</p>			講義・演習
評価	<p>方法：発表、課題提出</p> <p>配点：100 点</p>		
テキスト	配布資料		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
生命倫理	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	外部講師
<p><科目の考え方></p> <p>生命医科学・技術の進歩によって、医療の現場では新たな問題をかかえ、医療看護のあり方が問われている。生命操作さえできる時代となり、医療者は生命に対する尊厳を基盤に倫理的判断ができなければならない。その考え方の基礎としてバイオエシックスの知識が必要である。ここでは、現代社会における生命倫理関連の問題を考察するために必要な原則と概念について考えを深める。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理学とは何か、倫理学での基本的考え方について学び、生命倫理学を学ぶ意味について理解する。 2. 医療倫理学における基本的な理論と原則について学ぶ。 3. 医療倫理学における基本的視点について学ぶ。 4. 医療倫理学の原則について理解する。 5. パターナリズムとインフォームド・コンセントについて学び、意見を述べることができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 生命倫理学の基礎 2. 倫理的判断の基盤となる原則 3. 医療倫理の視点と方法論 4. 医療倫理学の原則①：生命のグレーゾーン 5. 医療倫理学の原則②：医療者の正義と善行 6. 臨床の医療倫理①：パターナリズム 7. 臨床の医療倫理②：インフォームド・コンセント 8. まとめ：「悪い知らせ」の物語 			講義
評価	方法：講義中の小レポート 配点：100 点		
テキスト	配布資料 参考文献は講義中に紹介する		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
家族論	1 単位 (15 時間)	2 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>私たちはなぜ「家族」を必要とするのでしょうか。人口減少社会の中で、家族はどのように変容していくのでしょうか。本講義では、現代社会における家庭福祉の意義とその歴史的変遷、子どもの人権擁護について理解を深めます。そして、家族の変遷をたどりながら、家族に関する固定観念を見直し、家族を相対化する視点を探ります。また、家族と地域社会との関わり、家族の社会制度としての役割、ケア機能について、具体的な事例を通じて学びます。</p> <p>さらに、時代の変化に対応して家族に関する新たな情報を取り入れます。これには、家族に関する著書、新聞、ドラマ、インターネット検索などの最新情報が含まれます。基本的には、家族社会学の長年にわたる研究成果を基に、家族という概念をより深く理解することを目指します。</p> <p><到達目標></p> <p>現代において家族は個人化し多様化しています。その結果、古典的な家族研究では捉えきれない問題が生じています。本講義では、将来看護師を目指す学生にとって役立つ知識と視点を提供することを目指します。学生は、家族に関する複雑な課題に対して批判的に考え、多様な家族のあり方に対応する力を養うことが期待されます。</p>			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会組織としての家族 (1) 家族が社会的に形成される理由について探求し、家族内の相互作用を通じた社会化と文化の形成について考察します。 2. 社会組織としての家族 (2) 家族社会学の視点から、家族と福祉の関係、核家族の普遍性、家族の分類、そして産業化の進展による家族形態・関係・意識の変化について学びます。 3. 結婚と家族 「家族」とは何かという問いを立て、家族に対する固定観念を見直します。また、家族の範囲と機能について考え、現代における家族の多様性を理解します。 4. 家族が抱える問題について 引きこもり問題を中心に、家族が直面する課題と地域支援の役割について検討します。 5. 労働と家族 雇用環境の変化がライフコースに与える影響を考察し、ワークライフバランスの重要性について議論します。 6. ジェンダーと家族 フェミニズムからジェンダー研究への進展を概観し、ジェンダーバイアスと性役割の期待が家族に与える影響を考えます。 7. 少子高齢化社会と家族 少子高齢化の原因と背景を探り、その社会的影響を家族の視点から考察します。 			講義
評価	方法：レポート提出と発表・各回授業のワークシートによる総合的に評価する 配点：レポート提出と発表 55 点・各回授業のワークシート 45 点		
テキスト	教科書の指定なし。参考図書は講義第 1 回目に提示。授業内で適宜、資料を配付する。		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
教育学	1 単位 (15 時間)	2 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>教育学とは、人間にとって固有の営みである教育とは何か、学ぶとはどういうことか、人々が人間的に豊かに発達していくにはどうすればよいかを根元的に追究していく学問である。人間形成における教育の機能と原理を学び、自己教育力、学習力を高め、自己の成長および生涯学習につなげるとともに、看護活動において教育的役割に応用できる基礎を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育の概念について述べることができる。 2. 学ぶこと、教えることの意味とその関係性について述べることができる。 3. キャリア教育・生涯学習の意義について述べることができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育とはなにか：「教育」の概念 2. 発達：教育を通しともに成長する 3. 学ぶ：「教える」ということ 4. 教育の目標と評価 5. 社会の中の教育 6. 生涯学習 7. キャリア教育（専門教育） 8. 教育のメディア — 教育をデザインする 			講義
評価	方法：講義内課題（講師ごとに設定） 配点：合計 100 点		
テキスト	なし（配布資料を使用。参考書あれば講義内で紹介）		

人間と生活、社会の理解

科目名	単位数	開講期	担当講師
社会学	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	外部講師
<p><科目の考え方></p> <p>戦後の日本社会は、高度経済成長を経て大きく変化した。私たちは豊かな暮らしを手に入れる一方で、共同体やコミュニティの弱体化に直面している。新しい社会の到来による、社会構造や規範・秩序の変化に対して、社会学から理解する。特に、日本の家族・仕事・教育の変化を学び、社会の変化と私たちの生活を考える力を養う。</p> <p>また、社会の一員として、「自己」と社会の繋がりについて考えることができことを目標としている。さらに、社会学の分析方法として、社会調査の意義と方法について理解する。</p>			
授業計画			学習方法
<p>1) 社会学ガイダンス+高度経済成長と日本</p> <p>2) 人口推計手法—少子化と高齢化の社会— (1 回目のレポート)</p> <p>3) 日本型循環モデル+家族の変化—共同体の崩壊—</p> <p>4) 新しい世代 (ビデオ学習あり) (2 回目レポート)</p> <p>5) 労働の変化</p> <p>6) 貧困問題</p> <p>7) 互助のシステム (ビデオ学習あり) +総括 (3 回目レポート)</p>			講義
評価	レポート : 100 点		
テキスト	講義の際にレジユメを配布する。		

人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期	担当講師
解剖生理学 I	1 単位 (15 時間)	1 年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>人々の健康や生活を支える看護を実践するためには、人体に関する知識が不可欠である。身体状態の把握や、根拠に基づいた看護実践の基礎的知識として、人体の構造と機能について系統的に理解し、生命・健康の維持とどのように関わっているか学習する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖学的正常位、方向用語と断面を説明できる。 2. ホメオスタシスの制御機構について説明できる。 3. 細胞の構造と機能について説明できる。 4. 皮膚・粘膜の構造・機能について説明できる。 5. 血液の成分とその機能について説明できる。 6. 心臓の構造・機能について説明できる。 7. 肺循環・体循環の特徴について説明できる。 8. 血圧を調節するしくみについて説明できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 解剖生理学の知識と看護 2. 解剖生理学概論 (1)解剖学的用語 (2)ホメオスタシス (3)フィードバック機構 細胞と組織、皮膚と膜 3～4. 血液 (1)血液の成分と機能 (2)造血 (3)凝固と線溶 (4)血液型と輸血 5～6. 循環器系 心臓の構造・機能 7～8. 循環器系 血管 (1)血管の種類と構造 (2)主要な動脈、静脈 (3)血圧の調節機構 循環器系 リンパ管・リンパ節 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学 メディカ出版		

人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期	担当講師
解剖生理学Ⅱ	1単位 (30時間)	1年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>人々の健康や生活を支える看護を実践するためには、人体に関する知識が不可欠である。身体状態の把握や、根拠に基づいた看護実践の基礎的知識として、人体の構造と機能について系統的に理解し、生命・健康の維持とどのように関わっているか学習する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上気道と下気道、肺の構造と機能について説明できる。 2. 換気・外呼吸・ガスの運搬・内呼吸について説明できる。 3. 排気量分画の意味を説明できる。 4. 呼吸調節のしくみについて説明できる。 5. 食物の摂取に関与する咀嚼・嚥下のしくみを説明できる。 6. 胃・小腸・肝臓・胆嚢・膵臓の構造・機能について説明できる。 7. 糖質・脂肪・タンパク質の消化・吸収について説明できる。 8. 大腸の構造・機能について説明できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1～2. 呼吸のしくみと看護 3～4. 呼吸器系 呼吸器系の構造と機能 5～6. 呼吸器系 呼吸のプロセス 7. 呼吸器系 呼吸の調節 8～9. 消化器系の知識と看護 10. 消化器系 咀嚼・嚥下 11～12. 消化器系 消化① (1)咀嚼・嚥下 (2)胃の構造・機能 (3)小腸の構造・機能 13. 消化器系 消化② (4)肝臓・胆嚢の構造 (5)膵臓の構造・機能 14. 消化器系 吸収 (1)糖質・脂肪・タンパク質の消化と吸収 (2)ビタミン・水の吸収 15. 消化器系 排泄 (1)大腸の構造・機能 (2)排便の機序 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学 メディカ出版		

人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期	担当講師
解剖生理学Ⅲ	1単位 (30時間)	1年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>人々の健康や生活を支える看護を実践するためには、人体に関する知識が不可欠である。身体状態の把握や、根拠に基づいた看護実践の基礎的知識として、人体の構造と機能について系統的に理解し、生命・健康の維持とどのように関わっているか学習する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓・尿管・膀胱・尿道の構造・機能について説明できる。 2. 尿の生成と排尿のしくみについて説明できる。 3. 血液成分の調節のしくみについて説明できる。 4. ホルモンの作用とホルモン分泌の調節について説明できる。 5. 骨・骨格の構造・機能が説明できる。 6. 関節の構造と種類、運動について説明できる。 7. 骨格筋・心筋・平滑筋の特徴と機能について説明できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 泌尿器系の知識と看護 2～3. 泌尿器系 腎臓の構造・機能、尿の生成、 4. 泌尿器系 血液成分の調節 5. 泌尿器系 尿管・膀胱・尿道の構造・機能、排尿の生理 男性生殖器の構造・生殖機能 6. 内分泌系の知識と看護 7～8. 内分泌系 内分泌系とホルモン (1)フィードバック機構 (2)ホルモンの化学的性質と作用機序 (3)脳にあるホルモン分泌器官 9. 内分泌系 各内分泌腺 甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、他 10～11. 骨格・筋系の知識と看護 12～13. 骨格系 骨と骨格の構造と機能 (1)頭蓋・体幹・体肢の骨格 (2)関節の構造と種類 14. 筋系 筋の種類と機能 (1)筋の種類 (2)筋の収縮 (3)反射 15. 筋系 身体の運動と骨格筋 (1)代表的な骨格筋のはたらき 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学 メディカ出版		

人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期	担当講師
解剖生理学Ⅳ	1単位 (30時間)	1年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>人々の健康や生活を支える看護を実践するためには、人体に関する知識が不可欠である。身体状態の把握や、根拠に基づいた看護実践の基礎的知識として、人体の構造と機能について系統的に理解し、生命・健康の維持とどのように関わっているか学習する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器の構造と機能について説明できる。 2. 女性の生殖機能について説明できる。 3. 神経組織の構造と機能について説明できる。 4. 脳・脊髄の構造と機能について説明できる。 5. 感覚・運動の伝導路について説明できる。 6. 免疫のしくみについて説明できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 女性生殖器系の知識と看護 2. 女性生殖器系 卵巣の構造・機能、卵管系・女性外生殖器の構造 3. 女性生殖器系 性周期、妊娠と出産、乳腺 4. 神経系の知識と看護 5～6. 神経系 神経系の分類、神経組織の構造・機能 7. 神経系 中枢神経系 (1)大脳 (2)間脳 (3)脳幹 (4)小脳 (5)脊髄 (6)伝導路 8～9. 神経系 末梢神経系、生体リズム 10. 感覚系 視覚、化学的感覚 (1)眼球の構造と機能 (2)視覚の伝導路 (3)嗅覚・味覚 11. 感覚系 聴覚と平衡覚 (1)耳の構造 (2)聴覚器の構造・機能 (3)平衡覚器の構造・機能 12. 感覚系 体性感覚、内臓感覚 13. 免疫系の知識と看護 14. 免疫系 非特異的生体防御機構：自然免疫機構 15. 免疫系 特異的生体防御機構：獲得免疫機構 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能①：解剖生理学 メディカ出版		

人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期	担当講師
生化学 I	1単位(15時間)	1年次 前期	外部講師
<p><ねらい> 病気を正しく理解するために、生体がどのような構成物質で成り立っているか、恒常性が保たれているかが理解できていなければならない。解剖生理学と同様、看護問題を解決できるためには、生化学の知識は必須である</p> <p><到達目標> 1. 生体を構成している物質の化学構造、性質、機能を理解する。 2. 生体を構成している物質の合成と分解を理解する。</p>			
授業計画			学習方法
1. 生化学を学ぶための基礎知識 (1)生化学の歩みと役割 (2)科学の基礎知識 (3)細胞の構造と機能 2. 糖質 (1)糖質の種類と構造 (2)二糖類・多糖類の構成 3. 脂質 (1)脂質の種類 (2)脂質の役割 4. タンパク質の分類と特徴 5. 核酸 (1)核酸の種類と構造 (2)DNAとRNAの理解 6. 水と無機質 (1)水と無機質の種類と働き (2)酸塩基平衡 7～8. ホルモン (1)ホルモンの種類と作用機序 (2)各種ホルモンの構造と作用			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	冊子 わかりやすい生化学－疾病と代謝・栄養の理解のために－ ヌーヴェルヒロカワ		

人体の構造と機能

科目名	単位数	開講期	担当講師
生化学Ⅱ	1単位(15時間)	2年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>生体の正常なしくみの破綻した状態である病気を正しく理解するために、生体がどのような化合物で成り立っているか、恒常性が保たれているかが理解できていなければならない。解剖生理学と同様、看護問題を解決できるためには、生化学の知識は必須である。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生体内におけるさまざまな反応とその役割を科学的側面から理解できる。 2. 遺伝情報とその発現を理解し、人体の生命現象を科学的側面から理解できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 代謝のあらまし、酵素 <ol style="list-style-type: none"> (1) 酵素の特徴と酵素反応 (2) 酵素の阻害作用 2. ビタミンと補酵素 <ol style="list-style-type: none"> (1) ビタミンの種類 (2) ビタミンの生理作用 3. 糖質代謝 <ol style="list-style-type: none"> (1) 糖質の主な代謝経路 (2) 糖質代謝の意義 (3) 代謝異常 4. 脂質代謝 <ol style="list-style-type: none"> (1) 脂質の消化と吸収 (2) 各酵素の分解と生合成 (3) 代謝異常 5. たんぱく質代謝 <ol style="list-style-type: none"> (1) タンパク質の代謝 (2) アミノ酸の代謝 6. 核酸代謝 <ol style="list-style-type: none"> (1) 核酸の合成と分解 (2) 核酸の再利用 (3) 代謝異常 7. ビリルビンの代謝と腸肝循環 8. 遺伝情報とその発現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 遺伝情報を担う遺伝子 (2) 複製・転写・翻訳 (3) 先天性代謝異常 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	冊子 わかりやすい生化学－疾病と代謝・栄養の理解のために－ ニューヴェルヒロカワ		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
栄養学	1単位(15時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>栄養学は食品や体内での栄養素の役割を基本として人の健康増進を担う学問である。健康な生活を送るために食生活の意義は大きく、人々の食生活への関心も高まっている。一方、現代社会において食生活に関する問題も多く、健康で豊かな生活を送る観点からも看護職として栄養に関する知識は重要である。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の健康と栄養の関連について理解する。 2. 現代の食生活と栄養状態の現状について理解する。 3. 食物を栄養素のレベルで理解し、人間が「生きる」ためにどのように栄養素を取り込み、利用しているのか理解する。 4. 人間のライフステージに合わせた健康増進のための栄養管理について理解する。 5. 食事や栄養と関連して起こる疾病、疾病により起こる問題について理解する。 6. 患者が実践可能な食事指導について理解し、効果的に行う技法について学ぶ。 7. 栄養療法である経管栄養と高カロリー輸液を安全に施行するための基本的知識を習得する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床栄養学の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> (1)臨床栄養学の意義と看護 (2)栄養とは (3)栄養アセスメント 2. 食品成分と食事摂取基準 <ol style="list-style-type: none"> (1)食品成分とエネルギー (2)日本人の食事摂取基準 3. 日常生活と栄養 <ol style="list-style-type: none"> (1)食文化 (2)運動と栄養 (3)人生各期における健康生活と栄養 4. 療養生活と栄養 <ol style="list-style-type: none"> (1)治療による回復を促すための食事と栄養管理 (2)栄養成分別のコントロール食 (3)嚥下障害のある人のための食事、経口摂取できない患者の栄養管理 5～6. 疾患別の栄養食事療法 <ol style="list-style-type: none"> (1)消化器系疾患 (2)内分泌・代謝疾患 (3)循環器系疾患 (4)腎疾患 7～8. 食事指導の実際 <ol style="list-style-type: none"> (1)健康増進のための栄養食事指導 (2)食習慣改善のための栄養食事指導 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち④ 臨床栄養学 メディカ出版 冊子 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 文光堂		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
微生物学	1単位(15時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>新しい感染症の出現、院内感染の問題等、感染症は、医療現場はおろか社会問題にもなっている。感染症の発生は患者のみならず、あらゆる人、そしてあらゆる場に問題が及ぶ。あらゆる場で多数の人に直接接する看護職にとって感染の理解はもちろんのこと、感染の予防の視点において、微生物の特徴と人体に及ぼす影響を理解し感染の基礎知識について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床微生物・医動物の種類と特徴、常在微生物の健康へのかかわりを理解する。 2. 代表的な感染症と臨床的微生物について、人体に及ぼす影響や治療について理解する。 3. 臨床微生物の感染と宿主の関係を理解し、感染防御機構の基礎を学ぶ。 4. 感染予防の基礎知識と発症予防・検査・治療について理解できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物・医動物とは、感染症の分類と感染防御機構 2. 呼吸器感染症 3. 消化器感染症・食中毒 4. 肝炎、尿路感染症、性感染症 5. 皮膚・粘膜の感染症、皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチア感染症 脳・神経系感染症 6. 宿主の因子が影響する感染症と病原体、小児の感染症、母子感染 高齢者の感染症 7. 日和見感染症、移植患者と感染症、手術創・外傷と感染症 血管内カテーテル関連血流感染症、薬剤耐性菌 8. まとめ、国家試験対策 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち③：臨床微生物・医動物 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病理学	1単位(15時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>身体機能の不調がなぜ起こり、どのように現れるのかを理解することは、対象の問題解決や転帰の予測のための看護の基本となる知識である。そのために、疾病の起こるメカニズム・その不調がどのように現れるのかということを知り、看護実践のための基礎的知識を修得する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構造と機能において正常から逸脱する場合のさまざまな症状・徴候のメカニズムに共通する現象、分類、対応や対処の原則を理解する。 2. よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候について理解する。 3. よく遭遇し、かつ重要な症状・徴候の対応や対処の原則を理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 序論、体液の異常 2. 血行障害 3. 炎症と修復 4. 免疫および免疫疾患、感染 5. 変性・壊死・萎縮・老化 6. 腫瘍と過形成 7. 先天異常 8. 代謝異常 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 疾病の成り立ち① 病態生理学 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病態治療学 I	1単位(15時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>運動機能障害は運動機能そのものだけではなく、日常生活や発達課題、自己実現の達成に影響を及ぼし、身体の諸機能も維持できない状況になる。運動機能障害を持つ対象を看護するためには、対象が可能な限り自立した生活を営めるように、運動機能障害をさまざまな視点から評価し、運動機能障害を有する患者が共通して抱える苦痛や問題点、臨床で多く経験する検査や治療を理解していなければならぬ。そのための基礎的知識を本科目で学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動機能障害により出現する症状とメカニズムについて説明できる。 2. 運動機能を知るための検査について述べるができる。 3. 運動機能障害を生じる代表的疾患の病態・治療について述べるができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器の疾患でみられる症候 2. 整形外科で行われる検査 3. 運動器疾患の主な治療・処置 4. 骨折 5. 脱臼、靭帯損傷、その他の外傷 6. 骨粗鬆症、関節炎・腱鞘炎 7. 変形性股関節症、大腿骨頭壊死、脊椎変性疾患、骨・軟部腫瘍 コンパートメント症候群 8. 筋疾患、末梢神経麻痺、その他の疾患 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑦運動器 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病態治療学Ⅱ	1単位 (30時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>呼吸と循環は人の生命維持において最も重要な役割を果たしており、看護においては、この呼吸と循環の一連の役割を理解し、出現している症状からどのような健康障害が考えられるか、そして、その状態が生活にどのような影響を与えているかを理解することが重要である。安全で安楽な医療を提供し、より健康な状態を長く継続するために必要な看護を考え、実践するための基礎的知識を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸・循環機能障害により出現する症状とメカニズムについて説明できる。 2. 呼吸機能障害を生じる代表的疾患の病態・治療について述べるができる。 3. 呼吸機能を知るための検査について述べるができる。 4. 循環機能障害を生じる代表的疾患の病態・治療について述べるができる。 5. 循環機能を知るための検査について述べるができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器の異常でみられる症候 2. 呼吸器科で行われる検査 3. 呼吸器疾患の主な治療・処置 4. 呼吸不全、酸素化障害 5. 換気障害、肺循環障害 6. 呼吸器感染症、肺癌 7. 免疫・アレルギー性肺疾患 8. 循環器機能の異常とそこから引き起こされる症候 9. 循環器系の検査 10. 循環器疾患の主な治療・処置 11. 心不全、血圧異常 12. アテローム性動脈硬化症、冠血流障害 13. 刺激伝導系の障害、弁機能の障害 14. 先天性の心臓の形態異常 15. 血管の器質異常、循環器以外の原疾患による循環器系の障害 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカEX 疾患と看護①呼吸器、②循環器 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病態治療学Ⅲ	1単位 (30時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>栄養代謝機能は、人が生まれてから死に至るまで、発達段階や健康状態、環境などの影響を受けながら絶え間なく繰り返され、この障害は大きく生活に影響する。</p> <p>ここでは、栄養代謝機能に障害のある対象の看護をするための基本の知識として、障害されることによっておこる症状や機能障害をおこす疾患の病態や治療について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 消化機能障害により出現する症状とメカニズムについて説明できる。 2. 消化器の主な検査について述べることができる。 3. 消化機能障害を生じる代表的疾患の病態・治療について述べるができる。 4. 内分泌・代謝内科で行われる主な検査について述べるができる。 5. 代謝機能障害を生じる代表的疾患の病態、治療について説明できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化器の異常でみられる症候 2. 消化器の検査 3. 消化器疾患の主な治療・処置 4. 口腔・歯科・頭頸部の疾患 5. 食道の疾患、胃十二指腸疾患 6～7. 小腸・大腸・肛門疾患 8～9. 肝臓の疾患、胆道系の疾患 10. 膵臓の疾患、腹膜・腹壁・横隔膜の疾患 11. 内分泌・代謝内科で行われる検査 12～14. 糖代謝異常 15. 肥満症・メタボリックシンドローム、脂質異常症、痛風 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカEX 疾患と看護③消化器、⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病態治療学Ⅳ	1 単位 30 時間	2 年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>神経系は内分泌系とともに体の各器官を調節し、生体の恒常性を維持する。各種の感覚器や器官が得た刺激は中枢神経系に送られ、それらを統合して筋・腺などの効果器に指令を送る。また、大脳は思考、学習、記憶、感情などの高次神経機能を営む。ここでは、それぞれの機能が障害されることによって起こる症状や疾患の病態や検査・治療の基礎的知識を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経系の障害により出現する症状とメカニズムについて説明できる。 2. 脳・神経系の代表的疾患の病態、検査、治療について述べることができる。 3. 代表的な眼疾患の病態・検査・治療について述べるができる。 4. 代表的な耳鼻科疾患の病態・検査・治療について述べるができる。 6. 代表的な皮膚疾患の病態・検査・治療について述べるができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 脳・神経の異常でみられる症候 2. 脳・神経疾患の検査 3～4. 脳・神経疾患の主な治療・処置 5～6. 脳血管障害 7. 脳腫瘍、頭部外傷 8～9. 水頭症、感染性疾患、脊椎・脊髄疾患 10. 神経変性疾患・不随意運動症、認知症 11. 視機能に関する症状所見、眼科で行われる検査、治療 12. 眼疾患 <ol style="list-style-type: none"> (1) 屈折・調節異常 (2) 結膜の疾患 (3) 水晶体の疾患 (4) 網膜・硝子体の疾患 (5) 緑内障 13. 耳鼻咽喉の異常でみられる症候、耳鼻咽喉科で行われる検査 14. 耳鼻科疾患 <ol style="list-style-type: none"> (1) 鼓膜疾患 (2) 味覚障害の疾患 (3) 中耳疾患 (4) 内耳・後迷路性疾患 (5) 甲状腺疾患、他 15. 皮膚科で行われる検査、炎症性皮膚疾患、感染症 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑤ 脳・神経 メディカ出版 ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑥ 眼/耳鼻咽喉/歯・口腔/皮膚 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病態治療学Ⅴ	1 単位 15 時間	2 年次 前期	外部講師
<p><科目の考え方></p> <p>体内に侵入した微生物や外来の異物を攻撃・破壊する免疫系など、それぞれの機能は生命を維持するために必要不可欠である。ここでは、それぞれの機能が障害されることによって起こる症状や疾患の病態や検査・治療の基礎的知識を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 造血機能障害により出現する症状とメカニズムについて説明できる。 2. 造血機能障害が生じる代表的疾患の病態、検査、治療について述べることができる。 2. 免疫機能障害が生じる代表的な疾患の病態、検査、治療について述べることができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液・造血器の異常でみられる症候、検査 2. 血液・造血器疾患の主な治療・処置 3. 貧血 4. 出血傾向 5. 血球異常、リンパ腫 6. 免疫機能の異常でみられる症候、アレルギーに関連した検査・治療 7～8. 膠原病 <ol style="list-style-type: none"> (1) 全身性疾患 (2) 関節リウマチ (3) 全身性エリテマトーデス (4) シェーグレン病 (5) 血管炎症候群 (6) ベーチェット病 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験 100 点		
テキスト	ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護④血液/アレルギー/膠原病/感染症 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
病態治療学VI	1 単位 15 時間	2 年次 前期	外部講師
<p><科目の考え方></p> <p>生命を維持するために各器官を連携させて調節する内分泌系、細胞をとりまく内部環境を一定に保つ泌尿器系など、それぞれの機能は生命を維持するために必要不可欠である。そして、生殖器系は次の世代を生み、種を維持するはたらきがある。ここでは、それぞれの機能が障害されることによって起こる症状や疾患の病態や検査・治療の基礎的知識を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌系の代表的な疾患の病態・検査・治療について述べるができる。 2. 腎・泌尿器系の代表的な疾患の病態・検査・治療について述べるができる。 3. 性・生殖機能障害の代表的な疾患の病態・検査・治療について述べるができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 内分泌器官の異常でみられる症候、検査 2. 視床下部・下垂体疾患 3. 甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎皮質・髄質疾患、その他の内分泌疾患 4. 腎臓の異常でみられる症候、検査、腎疾患の主な治療 5. 腎臓の疾患 6. 泌尿器の異常でみられる症候、泌尿器の疾患 7. 女性生殖器の異常でみられる症候、婦人科・乳腺科で行われる検査 8. 女性生殖器の疾患、乳房の疾患、更年期・老年期の疾患 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護④血液/アレルギー/膠原病/感染症 メディカ出版 ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑧腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 ナーシンググラフィカ EX 疾患と看護⑨女性生殖器 メディカ出版		

疾病の成り立ちと回復の促進

科目名	単位数	開講期	担当講師
薬理学	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>健康障害において薬物療法は治療や予防に重要であり、この科目にて薬の基礎知識を習得する。また、多くの医療事故の原因として誤った薬物の投与があげられることから、薬の基礎知識を学ぶと同時に、与薬に対する看護師の責任が大きいことを考える機会とする。</p> <p>また近年では生活習慣病、慢性疾患が増加する中、薬物療法の指導も看護師の重要な役割であることから、各治療薬について学習し患者が受けている薬物療法の理解につなげる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児、妊婦、高齢者の生理的变化に伴う薬物動態への影響と薬物治療を行う際の有効性・安全性について理解する。 2. 医薬品の分類、医薬品の使用・管理について理解する。 3. 薬剤の作用機序・有害反応と対策を理解する。 			
授業計画			学習方法
1～2. 医薬品総論 (1) 医薬品の分類と法律 (2) 作用原理とその影響 (3) 薬物動態 3～4. 主な生活習慣病に使用する薬 (1) 生活習慣病 (2) 高血圧 (3) 虚血性心疾患 (4) 不整脈 (5) 心不全 (6) 脂質異常症 (7) 糖尿病 5～6. がん・痛みに使用する薬 (1) がんの薬物療法と有害作用 (2) がん性疼痛に使用する薬 7～8. 脳・中枢神経系疾患で使用する薬 (1) 中枢神経系の働きと薬 (2) 抗てんかん薬 (3) パーキンソン病治療薬 (4) アルツハイマー型認知症治療薬 (5) 精神疾患に用いる薬 9. 感染症に使用する薬 10. 救命救急時に使用する薬 11. アレルギー・免疫不全状態の患者に使用する薬 (1) 気管支喘息 (2) 呼吸器疾患 (3) 関節リウマチ (4) SLE 12. 消化器系疾患に使用する薬 13～15. その他の症状に使用する薬 (1) 代謝機能障害 (2) 内分泌障害 (3) 血液・造血器障害 (4) 腎機能障害 (5) 運動機能障害 (6) 性・生殖機能障害 (7) 皮膚障害 (8) 泌尿器・生殖腺機能障害 (9) 皮膚障害 (10) 視覚障害 (11) 水分・電解質・カロリー不足			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 臨床薬理学 メディカ出版		

健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期	担当講師
総合医療論 I	1 単位 (15 時間)	1 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>医療は様々な変遷があり、今日、医療のあり方が根底から変貌しつつある。医療を担う専門職として医療の変遷と医療のあり方について理解する。また、医療関係職種 of 役割について理解し、多職種連携について今後学びを深めていくための基礎知識とする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 古代から近代までの医療・医学の歴史を知り、現代医療の基盤となった近代医学・臨床医学の発展と今後の方向性について理解する。 2. 医療と医療における諸問題について理解する。 3. 医療を担う専門職の役割と連携について理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 医療を担う専門職と連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医師の役割と養成 (2) 医療機関の連携 <p>医療の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 診断・治療のプロセス (2) 医療の実践と倫理的課題 2. 医学・医療の歴史 <ol style="list-style-type: none"> (1) 医学・医療の歴史を学ぶ意味 (2) 医学の発展 (3) 医療の黒歴史 (4) 脳死と臓器移植 3. 終末期医療と看護の特徴 4. 健康格差と社会的要因 5. グローバル化と医療 6. 医療を担う専門職の役割と連携 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉士 (2) 精神保健福祉士 (3) 介護支援専門員 (4) 医療ソーシャルワーカー (5) ソーシャルワークとは (6) 放射線技師 8. 地域医療連携室における看護師の役割と連携の実際 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 メヂカルフレンド社		

健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期	担当講師
総合医療論Ⅱ	1 単位 15 時間	2 年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>看護師には医療・保健・福祉領域の多職種と連携してケアを提供することが求められる。総合医療論Ⅰでの専門職種の育成や役割について学んだことをふまえ、ここでは専門職連携のための能力や方法の基礎的知識について理解する。また、他職種の専門性や意見が異なることを理解しながら、課題解決に向けてディスカッションすることを通し、看護師や他職種の理解をさらに深め、専門職連携における自己課題を明らかにする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療保障の現状と課題について説明できる。 2. 地域包括ケアを支える組織と職種について理解する。 3. 専門職連携活動のプロセスと能力について理解する。 4. チームの一員として役割を発揮していくための自己課題を明らかにできる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～2. わが国の医療保障の現状と課題</p> <p>(1) 医療計画推進の経過 (2) 医療保険 (3) 老人医療</p> <p>(4) 公費医療 (5) 医療保障の課題</p> <p>3～4. SW、ケアマネージャー、社会福祉士の役割と連携</p> <p>5～6. 専門職連携の基礎知識</p> <p>(1) 専門職連携活動の発展のプロセス</p> <p>チーム、チームビルディングについて</p> <p>対立と対立の解決をめざしたアプローチ</p> <p>(2) 専門職連携に必要な能力</p> <p>7～8. 他の専門職をめざす学生との協同学習</p> <p>協同学習を通して考える連携能力</p>			<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
評価	<p>方法：筆記試験・レポート</p> <p>配点：筆記試験 50 点、レポート 50 点</p>		
テキスト	<p>新体系看護学全書 健康支援と社会保障制度① 医療学総論 メヂカルフレンド社</p>		

健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期	担当講師
社会福祉 I	1 単位 15 時間	1 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>人間の健康にかかわる看護師にとって、社会保障、社会福祉の制度についての理解は重要である。対象が住み慣れた地域でその人らしく生活することを支えるために、看護師は福祉の専門職を含めた多職種と連携しながら支援することが求められる。そこで、社会福祉・社会保障の目的や機能、歴史、社会福祉のしくみと社会資源の活用について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの生活と社会福祉との関わりを理解できる。 2. 社会福祉や社会保険の動向も含め、わが国の社会保障制度の歴史について理解できる。 3. 社会資源の意味とその活用方法について述べることができる。 4. 生活保護における生活保障のしくみと内容について述べるができる。 5. 社会保険制度のしくみや課題について述べるができる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 現代社会と社会保障・社会福祉 2～3. 暮らしと社会福祉・社会保障 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉と社会保障とは (2) 社会福祉の歴史と新たな課題 4～5. 社会福祉のしくみと社会資源 <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉サービスの体系と提供組織 (2) 社会福祉の担い手と役割 (3) 社会福祉と看護の連携 (4) 社会資源の活用方法 6. 生活保護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 公的扶助制度 (2) 生活保護における生活保障 (3) 生活困窮者対策 7～8. 社会保障制度 <ol style="list-style-type: none"> (1) 年金制度 (2) 医療保険制度 (3) 介護保険制度 (4) 雇用保険制度 (5) 労災保険制度 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版		

健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期	担当講師
社会福祉Ⅱ	1 単位 15 時間	3 年次 前期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>社会福祉Ⅰで社会福祉・社会保障制度の意義やしぐみについて学んだことをもとに、対象を地域社会の一員として存在する生活者と捉え、地域での生活することの意味や地域福祉について理解を深める。そして、事例を通し、地域における福祉と保健・医療の連携の重要性について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域福祉の定義と理念について述べるができる。 2. 高齢者福祉、障害者福祉、児童家庭福祉に関する施策・制度について理解できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉のしくみと社会資源（復習） <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会福祉サービスの体系と提供組織 (2) 社会福祉と看護の連携 (3) 地域における看護職と福祉職を含んだ包括的支援としての連携 2. 社会福祉実践の概念、目的、構成要素、ソーシャルワーク 3～4. 地域福祉の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域福祉の定義と理念 (2) 地域福祉計画 (3) 地域共生社会への取り組み (4) 社会福祉協議会 (5) 保健・医療と福祉の連携 5. 子ども・家庭の福祉、障害児・者の福祉 6. 高齢者の福祉 7～8. 緑星まつりボランティア参加 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 健康支援と社会保障③ 社会福祉と社会保障 メディカ出版		

健康支援と社会保障制度

科目名	単位数	開講期	担当講師	
公衆衛生学	1単位 (30時間)	2年次 前期	外部講師	
<p><ねらい></p> <p>古来より、戦争、貧困、感染症の蔓延など世界には人々の健康を脅かす様々な問題があった。日本においても同様であるが、日本では特に第2次世界大戦後、公衆衛生を活性化し世界に誇る長寿国にもなった。しかし、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) による世界的パンデミックの経験は健康への脅威を覚え、また、温暖化、異常気象などの地球環境の悪化など、人々の健康を脅かす多くの公衆衛生課題を自覚する。人々の健康の権利を護る責任のある看護師はこのような問題への関心と意識をもたなければならない。健康に関するデータから状況を正しく理解し、行政の機能、取り組みの実際を公衆衛生的視点で理解すると共に、看護師の責任と役割を考える科目とする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の歴史的変遷から公衆衛生の言葉の意味と重要性を理解する 2. 公衆衛生活動の基本となる法律と行政機関の機能を理解する。 3. 様々な健康指標から、日本及び世界の健康状態とその対策を理解する。 4. 日常生活に直結する健康問題とその対策を理解する。 5. 公衆衛生の視点から看護職の公的責任と役割を理解する。 				
授業計画			学習方法	
1～2.	<p>公衆衛生概論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生を学ぶ意義 公衆衛生の重要性 ・公衆衛生のエッセンス <p>(1)公衆衛生とは何か (2)公衆衛生の歴史 (3)新たな公衆衛生の理念</p>		講義	
3.	公衆衛生の活動対象			
4.	公衆衛生のしくみ			
5.	集団の健康をとらえるための手法－疫学・保健統計			
6.	国際保健			
7.	環境と健康			
8.	感染症とその予防対策			
9～10.	<p>地域における公衆衛生の実践 母子・小児</p> <p>学校と健康</p>			
11.	職場と健康			
12.	地域における公衆衛生の実践 成人・高齢者			
13～14.	<p>地域における公衆衛生に実践 精神保健・障がい者・難病保健</p> <p>健康危機管理・災害保健</p>			
15.	地域における公衆衛生の実践 歯科保健			
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験100点			
テキスト	<p>系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院</p> <p>国民衛生の動向</p>			

健康支援と社会保障制度

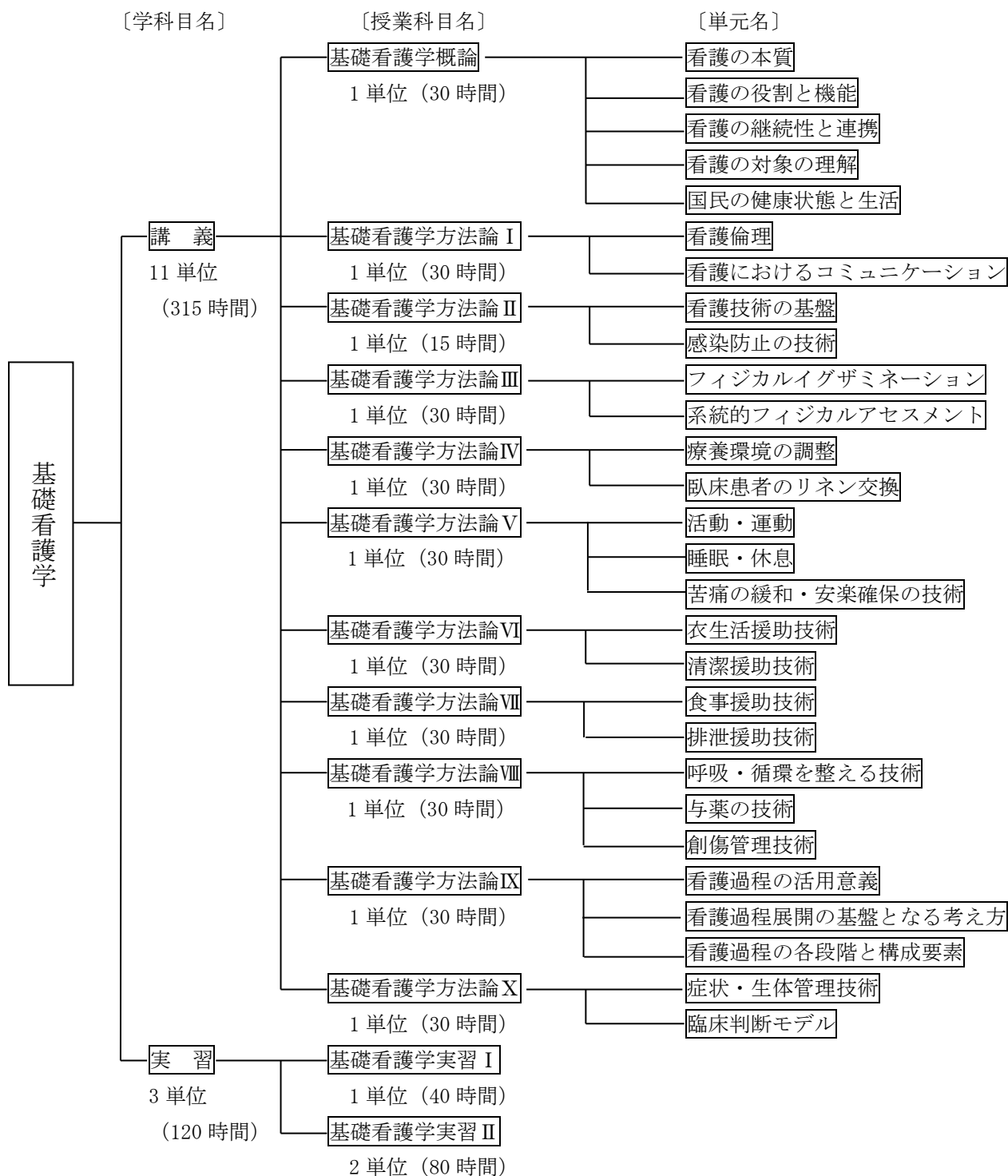
科目名	単位数	開講期	担当講師
関係法規	1 単位 (15 時間)	3 年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>医療職は人間の生命に直接関係するために業務内容が法律で厳格に規定されている。</p> <p>看護に携わるものが国民の健康を守り責務を果たすためには、専門的知識と技術を身につけるだけでなく、対象の権利、保健医療福祉に関する関係法令の理解が重要となる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床で問題となった事例を通し、看護師に必要な保健医療福祉等に関する法令を理解する。 2. 医療従事者としての業務と責任を自覚する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「医行為」と「診療の補助行為」との違い 2. 個人情報の保護と診療情報の開示 3. 看護記録の役割①－採血事故、転倒事故のケースをもとに 4. 看護記録の役割②－医療事故調査制度を見据えて 5. 児童虐待、高齢者虐待、DV、市町村、行政等との連携 6. 自己決定権－無輸血治療、DNAR、治療拒否のケース等をもとに 7. 説明義務 8. モンスター・ペイシエントへの対応 9. 看護師として働くに当たって知っておきたい労働法 			講義 グループ ワーク
評価	方法：筆記試験 配点：100 点		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障4 看護をめぐる法と制度 メディカ出版 別途講義資料を配布する。		

基礎看護学

＜基礎看護学の考え方＞

社会の変化に伴い人々の価値観も多様化し、医療に対する要求と期待は高まっている。看護においても安全で質の高い看護サービスの提供が求められており、看護職には豊かな人間性や包容力に加え、専門的な知識、正確な判断力、状況への対応力、さらには看護実践の科学的根拠を追及する能力が求められている。

今後学ぶ各領域の看護学において、基礎が十分に身につけていなければ、本質的な理解には至らない。したがって、基礎看護学では、単に知識を覚えたり技術の手順を身につけたりするに留まらず、さまざまな対象や状況に応じてそれらを応用できるようになるための土台として、看護の「基礎」とはなにかを学ぶ。そして、すべての看護学の根幹となる基本的な知識・技術・態度の修得をめざす。



科目名	単位数	開講期	担当教員
基礎看護学概論	1 単位 (30 時間)	1 年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>高齢者の急増や疾病構造の変化などから、多様な生活の場における看護師の活躍への期待は増すばかりである。しかし、看護を取り巻く状況が変化しても看護師の責務、役割は普遍的である。看護を学ぶスタートとなる看護学概論では、この普遍的な「看護とは何か、看護師とはどのような職業か」等、看護の概要について理解することを目標とする。また、看護への思考を深めるためには、看護の対象である人間について、健康についてなど多岐にわたるテーマへの関心、理解が必要となる。それらの概要についても学び始める。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の歴史の変遷から現在の看護の考え方が理解できる。 2. 看護の役割と機能が理解できる。 3. 社会の変遷に伴う健康観の変化および健康上の問題から看護の役割を考える。 4. 看護の対象である人間を理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師は何をする職業なのか、その概要を知る <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護の本質的役割と独自の機能 (2) 保健師助産師看護師法における定義とその意味 (3) 看護技術の特性 2～3 現在までの大まかな看護の歴史の変遷の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 看護はいつ誕生し、どのように発展したか (2) 近代看護の成立と看護の本質 <ol style="list-style-type: none"> ① ナイチンゲールの功績、専門職としての看護の誕生 ② ナイチンゲールの看護の定義 ③ 世界の看護と日本の看護の発展のおおまかな歴史 4～5 看護の定義の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本看護協会・国際看護師協会の看護の定義と意味 (2) ヘンダーソンの看護の定義 6 看護の質保障の要件 <ol style="list-style-type: none"> (1) 芸術としての看護の意味 (2) 個別的看護の意味 7 看護の役割と機能 看護の継続性の意味、各医療職種 of 役割、チーム医療について 8 ～ 10 看護の対象の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人間の欲求 <ol style="list-style-type: none"> ① 基本的欲求 ② 社会的欲求 ③ マズローの基本的欲求階層 (2) こころの理解 <ol style="list-style-type: none"> ① ストレスとコーピング ② 人間の欲求に関する理論 (3) 危機理論の概要 			講義 視聴覚教材 視聴

授業計画		学習方法
11～12	(4) 発達課題 (5) 生活者としての人間の理解 (6) 対象としての家族、集団、地域について 国民の健康状態と生活 (1) 健康とはなにか。WHOの健康の定義の理解 (2) ICFの考え方、障がいの考え方	講義
13～15	国民の健康状態と看護 (1) 国民の健康の全体像 (2) 国民の健康状態に関する統計 (3) こども、高齢者の健康に関する統計 (4) ライフサイクルに関する統計 (5) 健康指標から考える看護の役割	
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験 100 点	
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① 医学書院 冊子 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会 ナイチンゲール看護覚え書 ー看護であること看護でないことー 現代社 国民衛生の動向 厚生統計協会 その他教員作成資料	

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅰ	1単位 (30時間)	1年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>コミュニケーションは看護の基盤である人間関係構築のための重要な手段であり、技術である。よって、看護師には卓越したコミュニケーション能力が求められる。コミュニケーション能力とは他者を全体として理解する能力であり、信頼関係構築の基盤となる態度、他者の人格を尊重した適切な援助を実践する能力である。また自分自身の心のありように目を向け、それを言葉や行為で表現することこそ、人と人との間のコミュニケーションである。また、コミュニケーションは倫理の表現形態である。コミュニケーション能力を身につけることは倫理観を育て、倫理的態度を養うことでもある。よって、本科目では看護倫理と人間関係の成立の技術として看護におけるコミュニケーションについて学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護者にどうして倫理がもとめられるのか、職業倫理に基づく自覚と責任をもつことの重要性が理解できる。 2. 看護におけるコミュニケーションの意義と方法が理解できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. なぜ看護職には倫理が求められるのか (1) 倫理とは何か (2) 倫理原則について 2～4. 倫理要件 (1) 基本的人権の擁護 (2) 個人の尊厳とは何か (3) 患者の権利 (4) 自己決定権と患者の意思 (5) 情報管理 (6) インフォームドコンセント (7) ノーマライゼーション 5～6. 看護師の倫理綱領 (1) 職業倫理としての看護倫理 (2) ICNの倫理綱領の内容と意味 (3) 日本看護協会が示す倫理綱領の内容と意味 7～8. 現代医療における倫理的問題 看護場面における倫理的問題 (1) どのような問題があるか (2) 看護倫理に関する事例検討 			講義 グループワーク 視聴覚教材 視聴
<p><コミュニケーション></p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 看護におけるコミュニケーションの基礎知識 (1) 肯定的コミュニケーション (2) 傾聴と共感 10. リアクションと「見える化」の必要性 賞賛のコミュニケーション 11～12. 看護における人間関係成立のためのコミュニケーション フィッシュ哲学、アサーティブコミュニケーション、 コーチング、SST、ナラーティブアプローチ 13. 肯定的コミュニケーション演習 14. 患者とのコミュニケーション 出会い、聴く、話す技術の基本 患者面接の基本的なスキル 			ロールプレイング 講義

15.	<p>医療チームとのコミュニケーション</p> <p>(1) 報告の基本と重要性 (2) 交渉、調整、確認について</p> <p>(3) カンファレンスの概念、カンファレンスを成立するための基本要素</p>	講義 演習
評価	<p>方法：筆記試験</p> <p>配点：筆記試験 100 点</p>	
テキスト	<p>系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学① 医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院</p> <p>冊子 看護者の基本的責務 日本看護協会出版会</p>	

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅱ	1単位（15時間）	1年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>看護師が提供する様々な看護技術は、安全や安楽を担保したうえで、対象となる人の自立をめざした直接的行為であり、science と art の側面を持つ。看護技術を学び、技術力を身につけていく土台として、看護技術とはなにか、看護技術を適切に実践するための要素について理解する。</p> <p>また、あらゆる場において重要となる感染とその予防のための基本的知識・技術について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護技術の特性が理解できる。 2. 感染成立の条件と感染防止の基本について説明できる。 3. 標準予防策および感染経路別の予防策が適切に実施できる。 4. 洗浄・消毒・滅菌の目的・方法がわかり、滅菌物の適切な取り扱いができる。 5. 感染性廃棄物の取り扱いが適切に実施できる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～4. 看護技術の理解</p> <p>(1) 看護技術とは何か (2) 看護技術の特徴</p> <p>(3) 看護技術の範囲</p> <p>(4) 看護技術を適切に実践するための要素</p> <p>(5) 看護技術の発展と修得</p> <p>5. 感染と予防の基礎知識</p> <p>(1) 感染の成立条件 (2) 感染予防</p> <p>6. 標準予防策</p> <p>(1) 手指衛生 (2) 個人防護用具</p> <p>7. 感染経路別予防策</p> <p>(1) 接触予防策 (2) 飛沫予防策</p> <p>(3) 空気予防策 (4) 空気予防策</p> <p>8. 洗浄・消毒・滅菌、無菌操作</p> <p>感染性廃棄物の取り扱いと医療施設における感染管理</p>			<p>講義</p> <p>演習</p>
評価	<p>方法：筆記試験</p> <p>配点：筆記試験100点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版</p> <p>冊子 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術・Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅲ	1単位 (30時間)	1年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>本科目においては、フィジカルアセスメントを行なうための技術として問診とフィジカルイグザミネーションを学び、その技術を活用し系統別なフィジカルアセスメントの知識と技術の習得を目指す。</p> <p>演習では、フィジカルイグザミネーションの基本的な技術を用いて、対象の観察から正しく情報を収集し、その情報の持つ意味を解釈、分析するための基礎的手法と能力を身につける。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルアセスメントの意義と重要性を理解する。 2. フィジカルアセスメントの基本技術を理解し習得をする。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヘルスアセスメントの意義と目的の理解 ヘルスアセスメントとフィジカルアセスメントの関係性の理解 フィジカルアセスメントの基本技術の理解 (問診、視診、触診、聴診、打診) 対象者の全身状態・全体印象の把握 2～3. フィジカルイグザミネーション 1 (1)身体計測の目的と指標の理解、計測方法の理解 (2)身体計測の実際 4～10. フィジカルイグザミネーション 2 (1)バイタルサインを測定する目的とそれぞれの関連性 (2)バイタルサインの測定方法と観察内容 (3)バイタルサイン測定の実際 11～13. 系統的フィジカルアセスメントの考え方 (1)呼吸器系 (2)循環器系 (3)消化器系 (4)筋・骨格系 (5)神経系 14～15. フィジカルアセスメント演習 			<p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義 演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p>
評価	<p>方法：筆記試験・技術試験</p> <p>配点：筆記試験：70点、技術試験：30点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅳ	1単位 (30時間)	1年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>対象を取り巻く外部環境をいつも安全で快適な状態に整えるのは、すべての看護実践の基本である。病床環境を気持ちよく整え、回復のために対象の自然治癒力を引き出す。本科目では病床環境の調整について基本的知識を理解し、安全安楽な環境を整える技術を習得する。</p> <p>演習では、環境調整の重要性を理解した上で、ベッドメイキングの技術を習得する。その後、条件設定に沿って、ベッドに臥床中の対象のシーツ交換を安全に実施できる技術を習得する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の視点で環境を理解する。 2. 療養生活の環境を構成する要素を理解する。 3. 療養環境のアセスメントと調整について理解する。 4. 基本的なベッドメイキング・リネン交換の技術を習得する。 5. 臥床患者のリネン交換が安全・安楽に実施できる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～2. 療養生活の環境</p> <p>(1)内部環境と外部環境</p> <p>(2)生活環境</p> <p>3. 療養環境を構成する要素</p> <p>4～5. 療養環境のアセスメントと調整</p> <p>(1)療養環境</p> <p>(2)病室の環境を構成する要素</p> <p>(3)危険予測と安全管理</p> <p>(4)プライバシー保護</p> <p>6. ベッド周囲の環境調整技術</p> <p>7. ベッドメイキング</p> <p>8～9. ベッドメイキング演習</p> <p>10～11. リネン交換 (臥床患者の環境調整)</p> <p>12～15. 事例患者のリネン交換演習</p>			<p>講義</p> <p>GW</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p>
評価	<p>方法：筆記試験、技術試験</p> <p>配点：筆記試験50点、技術試験50点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版</p> <p>冊子 看護がみえる Vol.1基礎看護技術・Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p> <p>ナイチンゲール看護覚え書—看護であること看護でないこと— 現代社</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅴ	1単位 (30時間)	1年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>人間が生活を送るための活動に焦点をあて、人体の基本的な動きを理解したうえで対象と看護者双方が安全・安楽であり、看護者が効果的・効率的にケアを実践する基本的方法を学ぶ。また、活動によってもたらされた緊張や疲労を回復するための睡眠と休息、苦痛の緩和のための援助について考え、患者への援助方法を学ぶ。</p> <p>休息、睡眠によって身体の回復を促し対象に安楽をもたらす援助技術を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活における姿勢と身体の動きに関心を持ち、体位・姿勢の種類と特徴を理解できる。 2. ボディメカニクスを理解し、効果的・効率的に自分の身体を動かすことができる。 3. 同一体位を保つことの問題について考え、体位変換と運動や活動の必要性が理解できる。 4. ボディメカニクス技術を活用し、基本的な体位変換・移動技術を習得できる。 5. 活動のための補助具や福祉用具の適切な使用方法がわかり、援助技術を習得できる。 6. 睡眠・休息の意義と必要性を理解し、適切な援助方法を考えることができる。 7. 苦痛を緩和し精神的安寧を対象にもたらす援助技術を習得できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の自然な動作、姿勢とボディメカニクス 2～7. 体位と移動 (体位変換) <ol style="list-style-type: none"> (1) 同一体位が対象にもたらす影響 (2) 体位保持 (ポジショニング) (3) ボディメカニクスを活用した体位変換の実践 (4) 移動 8～9. 補助具での歩行・移送と実際 <ol style="list-style-type: none"> (1) 杖・歩行器 (2) 車椅子・ストレッチャー 10～13. 事例を基にした援助の計画と実践 14. 睡眠・休息の援助 15. 苦痛の緩和・安楽をもたらす身体ケア、電法 			講義・GW 演習 講義 演習 GW・演習 講義
評価	方法：筆記試験・技術試験 配点：筆記試験：40点、技術試験：60点		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版 冊子 看護がみえる Vol.1基礎看護技術・Vol.2臨床看護技術 MEDIC MEDIA		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論VI	1単位 (30時間)	1年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>人間の基本的なニーズである身体を清潔にすることの生理的・心理的・社会的意義を理解し、身体の清潔を保持するための知識と技術を習得する。また、衣生活の援助の重要性を理解し、対象の状態に合わせて適切な被服気候を整える援助技術を習得する。</p> <p>演習では、条件設定した対象の清潔へのニーズをアセスメントし、身体各部の清潔保持の必要性を考え、対象にとって安全安楽な清潔援助技術の習得を目指す。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2. 清潔援助の意義と看護師の役割について理解する。 3. 清潔援助の方法選択の視点を理解する。 4. 清潔援助の実施にかかわる基礎知識と援助技術を習得する。 5. 衣生活の援助の重要性と、方法選択の視点を理解する。 6. 衣生活における援助技術を習得する。 			
授業計画			学習方法
1～3.	清潔援助の実施に必要な基礎知識 清潔のニーズの判断に必要な情報と状態に応じた方法選択の視点 衣生活の援助のための基礎知識 入浴・シャワー浴が身体に及ぼす影響		講義 講義 グループワーク
4～8.	身体各部への清潔援助の実際 (1)部分浴、爪切り (2)洗髪 (3)全身清拭・寝衣交換の基本的援助		講義 演習
9～13.	『清潔・衣生活』の原則を検証しながら、患者の状態に合わせた全身清拭と寝衣交換の方法の選択・工夫を考える。		グループワーク 演習
14～15.	事例への援助の実際 全身清拭と寝衣交換		演習
評価	方法：筆記試験・レポート 配点：筆記試験：70点、レポート：30点		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術 メディカ出版 冊子 看護がみえる Vol.1基礎看護技術・Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅶ	1単位 (30時間)	1年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>生命を維持し健康な日常生活を支える食事と排泄の意義を理解して基本的な援助方法を学ぶ。</p> <p>食事の援助技術では、食べることによって対象の療養生活がよりゆたかになることをめざし、栄養状態や摂食・嚥下機能について理解したうえで援助技術を習得する。また、基本的な食事援助の手技の習得にとどまらず、さまざまな対象や状況に応じて、より適切な食事援助の方法は何かを考える力の基盤を養う。排泄の援助技術では、対象の自尊心に配慮したかわりと、排泄機能について理解したうえで援助技術を習得する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「食べる」ことの意義と食行動に関連する身体機能を理解する。 2. 対象の食生活および食行動に必要な看護を明らかにするアセスメントについて理解する。 3. 安全で快適な食事の基本的な援助を習得する。 4. 経口的な栄養摂取が困難な場合の摂食・嚥下訓練と援助について理解する。 5. 排尿・排便の意義とメカニズムについて理解する。 6. 対象の状態に合わせた排泄援助方法を考えるときのアセスメントの視点を理解する。 7. 自然排尿及び自然排便のための援助を習得する。 8. 自然排尿及び自然排便ができない場合の援助方法を理解する。 			
授業計画			学習方法
1.	食事・食事援助の基礎知識		講義
2.	栄養・食行動に関するアセスメント		
3～5.	経口摂取が困難な場合の摂食・嚥下訓練、口腔ケア		
6～7.	食事援助の実際、口腔ケア演習		演習
8.	非経口的な栄養摂取の援助 経鼻胃チューブの挿入演習 (1)経管栄養法 (2)中心静脈栄養法		講義・演習
9～10.	排泄の意義と排泄援助の目的 (1)自然排尿および自然排便の基礎知識 (2)観察とアセスメント		講義
11～12.	床上排泄の援助の実際、陰部洗浄		演習
13.	自然排尿および自然排便ができない場合の援助		講義
14～15.	自然排尿および自然排便ができない場合の援助の実際 (1)導尿 (2)浣腸 (3)摘便		演習
評価	<p>方法：筆記試験</p> <p>配点：筆記試験：100点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院</p> <p>ナーシンググラフィカ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ メディカ出版</p> <p>冊子 看護がみえる Vol.1基礎看護技術・Vol.2臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅷ	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>対象が安全かつ安楽に治療・処置が受けられるための知識と技術を習得する。</p> <p>呼吸を整える技術は、吸入・吸引に関する生体への影響と観察の視点、援助技術について習得する。与薬の技術は薬物が身体に与える影響を理解し、薬剤の正しい管理と安全で確実な与薬のために必要な援助技術の習得を目指す。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸を整えるための治療・処置の目的を理解し、基本的な援助技術を習得する。 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、与薬経路の特徴と薬剤の管理方法を理解する。 3. 注射実施にともなう危険性、法的責任を理解し、安全な注射実施の方法を習得する。 4. 輸血の目的を理解し輸血管理の知識を習得する。 5. 創傷治癒のプロセスと治癒を予防するための知識を習得する。 			
授業内容			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 ～ 2. 呼吸を整える技術に関する基礎知識 (1)酸素吸入療法 (2)吸引 (3)吸入 3. 酸素吸入療法、吸引、吸入技術演習 4. 与薬の基礎知識 5. 経口与薬・口腔内与薬の基礎知識 6. 各注射方法に共通する基礎知識 7. 静脈内注射（ワンショット）の基礎知識 8. 点滴静脈内注射の基礎知識 9. 皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の基礎知識 10～11. 注射技術演習 (1)薬液の吸い上げ (2)皮下注射 (3) 筋肉内注射 (4)静脈内注射 12. その他の与薬方法の基礎知識 (1)点眼 (2)点鼻 (3)経皮的与薬 (4)直腸内与薬 13. 輸血の基礎知識 14. 創傷管理の基礎知識 (1) 創傷とその治癒 (2) 創傷治癒のための環境づくり (3) 創傷処置 15. 褥瘡予防 (1) 褥瘡発生のメカニズム (2) 褥瘡を予防する援助の実際 			<p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p>
評価	<p>方法：筆記試験</p> <p>配点：100 点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院</p> <p>看護がみえる Vol.1.1 基礎看護技術・Vol.1.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅸ	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>対象の健康上の問題を見きわめ、個別的な看護を提供する方法として看護過程を学び、看護過程の基盤となる考え方をを用いて看護実践のプロセスを経験する。その過程を通して看護過程の構成要素および各段階の基本的な考え方を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の定義と目的を説明できる。 2. 看護過程を展開する際の基盤となる考え方を理解し、説明できる。 3. 看護過程の構成要素の役割と内容を説明できる。 4. 情報を解釈・分析し、健康上の問題を導き出すことができる。 5. 紙上事例に対し、看護過程の一連のプロセスを展開できる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程とは・看護過程をどうして学ぶのか 2. 看護過程を展開する際の基盤となる考え方 3～7. 看護過程の各段階：アセスメント <ol style="list-style-type: none"> (1)アセスメントとは (2)アセスメントの枠組み：ゴードンの11の機能的健康パターン (3)データ収集と情報の整理 (4)情報の持つ意味と統合（解釈と分析） (5)11領域の統合（全体像の把握） 8～9. 看護過程の各段階：看護問題の明確化(看護診断) <ol style="list-style-type: none"> (1)看護問題とは (2)NANDA-Iの看護診断 (3)看護問題の優先順位 (4)プロブレムリスト 10. 看護過程の各段階：看護計画の立案 <ol style="list-style-type: none"> (1)期待される成果の明確化 (2)評価基準の設定 (3)看護計画の立案 11～13. 紙上事例の解説・個人ワーク 14. 看護過程の各段階：実施・評価 経過記録(SOAP)・サマリー 15. 全体のまとめ・実習にむけて 			講義・演習
評価	方法：筆記試験・レポート（紙上での看護過程の展開） 配点：筆記試験 50 点 レポート 50 点		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 ナーシンググラフィカ 基礎看護学(2) 基礎看護技術Ⅰ メディカ出版 冊子 看護がみえる VOL 4 看護過程の展開 MEDIC MEDIA 冊子 NANDA-I看護診断 定義と分類 2024-2026 医学書院		

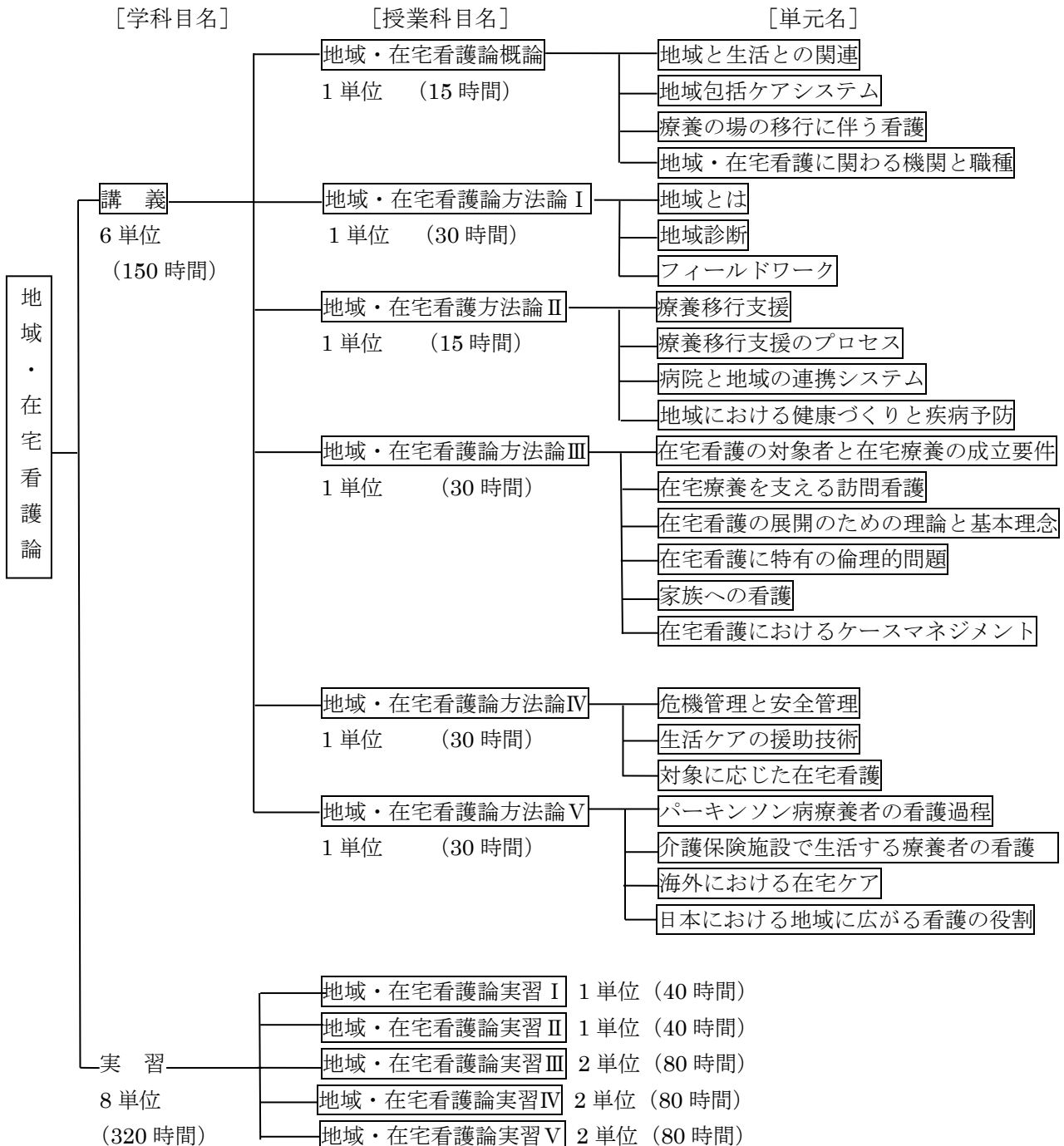
科目名	単位数	開講期	担当講師
基礎看護学方法論Ⅹ	1 単位 (30 時間)	1 年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>症状・生体機能管理技術として、検体検査と生体情報のモニタリングについて学び、対象が安全、安楽に検査・処置を受けるための知識と技術を習得する。医師の指示に基づいて行われる検体検査や生体情報のモニタリングは、疾病の診断・治療とその効果を確認するほか、得られた情報は看護ケアの判断にも用いられる。そのため正確な情報を得る為に必要な検体を採取する適切な方法と、侵襲を伴う検査・処置では対象の苦痛を最小限にするための援助を学ぶ。</p> <p>看護師には、患者を取り巻く環境や状況から様々な事象を察知し対応できる能力が求められる。変化する患者の反応や状況に応じて即時的に気づき、反応できる能力とリフレクションのスキルが必要である。本科目では、演習を通じて臨床判断のプロセスを学び、臨床判断の基礎的能力の習得をめざす。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 検査・処置、生体情報モニタリングの目的と看護の役割を理解する。 2. 検査・処置の際に必要な援助を習得する。 3. 臨床判断モデルを理解できる。 4. 事例患者の臨床判断に必要な知識が理解できる。 5. 臨床判断能力を身に着ける必要性を理解し、自己課題を明らかにできる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 症状・生体機能管理技術の基礎知識と検体検査 <ol style="list-style-type: none"> (1)血液検査(静脈血採血、動脈血採血、血糖測定) (2)尿・便検査 (3)喀痰検査 2. 静脈血採血、血糖測定の実際 3. 検査時の看護 <ol style="list-style-type: none"> (1)X線撮影、CT、MRI (2)内視鏡検査 (3)超音波検査 (4)肺機能検査 (5)核医学検査 4～5. 生体情報のモニタリングとME機器の基礎知識と取り扱い <ol style="list-style-type: none"> (1)心電図モニター (2)SpO₂モニター (3)輸液ポンプ (4)人工呼吸器 (5)低圧持続吸引器 6～7. 穿刺・洗浄の介助 <ol style="list-style-type: none"> (1)腰椎穿刺 (2)胸腔穿刺 (3)腹腔穿刺 (4)骨髄穿刺 (5)胃洗浄 8～10. 臨床判断のプロセス 11～15. 事例学習 			<p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p> <p>演習</p>
評価	<p>方法:筆記試験、レポート</p> <p>配点:筆記試験 50 点、レポート 50 点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院</p> <p>冊子 看護がみえる Vol.1 基礎看護技術・Vol.2 臨床看護技術 MEDIC MEDIA</p>		

地域・在宅看護論

<地域・在宅看護論の考え方>

地域・在宅における看護の対象は、地域で暮らすすべての人である。対象である「その人」は、個人として存在するだけでなく、家族や様々なコミュニティの一員であり、地域のシステムの中にある。そこで、地域・在宅看護論では、学生の身近にある人々の暮らしから学び、暮らしの基盤としての地域を理解していく。その上で地域包括ケアシステムにおける具体的な支援が考えられるように、基礎的な知識・技術について学んでいく。

<地域・在宅看護論の構成>



科目名	単位数	開講期	担当講師
地域・在宅看護論概論	1単位(15 時間)	1年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>看護は、病院にとどまらず、どこの場においても存在する。本来、人間は地域の中で生活するものであり、病院という場は一時の通過点である。つまり、看護は病院と地域で継続している。ここでは、地域の人々の健康について理解し、地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護と地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域と生活の関連を理解する。 2. 地域の人々を対象とした看護活動と看護を提供する場について理解する。 3. 地域包括ケアシステムについての概要と看護職の役割を理解できる。 4. 暮らしの基盤としての地域の理解をする。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域のなかでの暮らしと健康・看護 2～4. 人々の暮らしと地域・在宅看護 <ol style="list-style-type: none"> (1) 人々の暮らしの理解 (2) 地域・在宅看護の役 5～8. 暮らしの基盤としての地域の理解 <ol style="list-style-type: none"> (1) 暮らしと地域 (2) システム理論・システム思考 (3) 地域包括ケアシステムと地域共生社会 			講義 GW
評価	方法：レポート 配点：レポート100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
地域・在宅看護論方法論Ⅰ	1単位(30 時間)	1年次 後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>地域には多様性があり、それぞれの地域の特性が人々の暮らしに影響する。人々ができるだけ健康的に暮らせるように、また健康障害があっても地域で暮らし続けられるように支援する。そのためにそれぞれの暮らしと地域を理解し、地域の課題を明らかにし健康的に暮らせるための対応策を考えていく。ここでは苫小牧市、学校周辺の地域において具体的に学んでいく。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の暮らしについて理解する。 2. 自分の住む地域の特性を理解する。 3. 地域包括ケアシステムについて、様々な自治体で実際に行われている例について調べる。 4. 健康障害が生じても安心して地域で暮らし続けるための課題を明らかにし、対応策を考える。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域とは (1)地域とは (2)暮らしとは 2～3. 地域診断：苫小牧市でできること（フィールドワーク説明） 4～8. 地域診断 情報収集、アセスメント、課題の明確化、計画立案 9～10. フィールド調査について内容検討 10～12. フィールド調査の実践・地域診断の修正 13～15. 発表まとめ、発表 「地域で暮らす高齢者の健康的な生活のための関わり」 			講義 GW
評価	方法：フィールド調査の過程・発表・レポート 配点：フィールド調査：30点、地域アセスメント：15点、発表：10点、 レポート：45点、		
テキスト	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
地域・在宅看護論方法論Ⅱ	1単位(15 時間)	2年次前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>地域・在宅看護においては、地域で生活する人々、特に健康障害のリスクの高い人々に対して、個別支援にとどまらず、地域の住民や専門職の協力を得て、地域でケアシステムをつくることにより、健康づくりと疾病予防を進めることが必要である。そこで、療養者と家族が健康に生活できるように地域での生活への移行支援について学ぶ。さらに、地域で生活する人びとの健康づくりと疾病予防について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 療養移行支援の意義・目的・プロセスを理解する。 地域における健康づくりと疾病予防の必要性とシステムづくりの方法を理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 療養移行支援 療養移行支援のプロセス 病院と地域の連携システム ～ 6. グループワーク「A氏の療養移行支援（在宅で終末期を迎える療養者）」 ～ 8. 地域における健康づくりと疾病予防 <ol style="list-style-type: none"> 意義 健康づくりと疾病予防システムづくりの手法・実際例 			講義・GW
評価	方法：レポート 配点：レポート100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師	
地域・在宅看護論方法論Ⅲ	1単位(30 時間)	2 年次前期	専任教員	
<p><ねらい></p> <p>ここでは、在宅看護の対象者と在宅で療養生活をするために必要な要件と看護について理解していく。看護においては、在宅ケアを支える訪問看護に焦点をあてて学習を進める。</p> <p>また、看護を展開するための基本理念とその概要について理解し、在宅看護に特有の倫理的課題について考える。さらに生活の場における療養者と家族の多様性について理解し、看護が担うケースマネジメント/ケアマネジメントについて学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象者について理解する。 2. 在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件について理解する。 3. 在宅看護に特有の倫理的課題について考える。 4. 訪問看護の目的・制度、現状を理解し、訪問看護ステーション、サービスについて理解する。 5. 地域・在宅看護を展開するための基本理念について理解する。 6. 家族の多様性について理解する。 7. 在宅療養者の家族ケアについて理解する。 8. 看護が担うケースマネジメント/ケアマネジメントについて理解する。 				
授業計画			学習方法	
1.	在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件 (1)在宅看護の対象者 (2)在宅療養の成立要件 (3) 在宅看護に特有の倫理的課題		講義・GW	
2～6.	在宅療養を支える訪問看護 (1)訪問看護の特徴 (2)在宅ケアを支える訪問看護ステーション (3)訪問看護サービスの展開と記録			
7～8.	在宅看護を展開するための理論と基本理念 (1)セルフケア理論 (2)健康行動理論 (3)アドボカシー (4)エンパワメント 他			
9～11.	在宅療養の場における家族の捉え方 (1)家族とは (2)家族の多様性に応じた看護			
12～13.	在宅療養者の家族への看護 (1)家族介護力のアセスメントと調整 (2)家族関係の調整 (3)ケア方法の指導 (4)家族介護者の健康 (5)レスパイトケア			
14～15.	在宅看護におけるケースマネジメント (1)看護が担うケースマネジメント/ケアマネジメントの概要 (2)介護保険におけるケアマネジメント (3)ケースマネジメント/ケアマネジメントの過程			
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験100点			
テキスト	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論	①地域療養を支えるケア		メディカ出版
	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論	②地域療養を支える技術		メディカ出版

科目名	単位数	開講期	担当講師
地域・在宅看護論方法論Ⅳ	1単位(30 時間)	2 年次後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>在宅ケアに携わる看護師は、在宅療養を望む療養者と家族から、安全で質の高いケアの提供が求められている。そのため、看護師は日常の支援の中で、療養者や家族の健康危機の予測とアセスメントを行い、事故予防と安全管理というリスクマネジメントをしていく必要がある。在宅療養におけるリスクの特徴を理解し、日常生活における安全管理について学ぶ。さらに、事例をもとに在宅で行われている援助技術や看護について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護における危機管理の原則と基本を理解する。 2. 在宅療養の場におけるリスクの特徴を理解し、日常生活の場で発生する可能性のある事故や問題に対する予防策を述べることができる。 3. 在宅での日常生活援助ならびに医療的ケアにおいて、アセスメントや援助技術の基本を学び、臨床判断モデルを使い場面における対象を理解し、実践することができる。 4. 在宅療養者と家族の生活上の課題と在宅療養者の状況に応じた在宅看護活動の実際を理解する。 			
授業計画			学習方法
<p>1 ～ 2. 在宅看護における危機管理と日常生活における安全管理</p> <p>(1)在宅看護における危機管理 (2)日常生活における安全管理</p> <p>(3)災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理</p> <p>3 ～ 7. 生活ケアの援助技術</p> <p>(1)食のアセスメントと援助 (2)排泄のアセスメントと援助</p> <p>(3)清潔のアセスメントと援助 (4)移動のアセスメントと援助</p> <p>(5)呼吸のアセスメントと援助</p> <p>8 ～11. 医療的ケアの援助技術</p> <p>(1)服薬管理 (2)在宅酸素療法</p> <p>(3)在宅経管栄養法 (4)良肢位の保持と褥瘡予防</p> <p>12～15. 対象に応じた在宅看護 認知症を有する療養者</p>			講義・GW
評価	<p>方法：筆記試験、レポート、技術試験</p> <p>配点：渋谷：筆記試験：50点、入浴技術試験：30点、レポート：20点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ②地域療養を支える技術 メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
地域・在宅看護論方法論Ⅴ	1単位(30 時間)	3 年次前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>地域で生活する療養者と家族を支えるため、地域包括ケアシステムにおける各職種の役割と連携の概要について学ぶ。また、地域包括ケアシステムにおいて療養者が望む生活を送るための支援や活用可能な社会資源について、年々増加している難病の療養者や介護保険施設で生活している療養者の事例をもとに考えていく。</p> <p>最後に海外での在宅ケアの特徴を学び、日本での在宅ケアとの共通性を理解し、今後の日本における在宅ケアの発展にむけてどのようにしていくと良いか考えていく。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 難病の療養者に対する制度やサービスについて理解する。 2. 難病療養者の事例を通して、活用可能な社会資源について明確にし、必要な看護を考えることができる。 3. 介護保険施設に関わる制度やサービスについて理解する。 4. 介護保険施設で生活する療養者の特徴をふまえた看護を理解する。 5. 在宅看護の先進諸国での実践から、在宅看護の様々な可能性に気づく。 6. 国際的な視野をもち、医療全体の中での在宅看護の重要性を理解する。 7. 現在の日本での取り組みを学び、今後の日本における在宅看護の発展にむけてどのようにしていくとよいか、考える。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1 ～ 2. 地域包括ケアシステムにおける多職種連携 3 ～ 10. パーキンソン病療養者の看護過程 11 ～13. 介護保険施設で生活する療養者への看護 介護保健施設で生活する療養者の特徴、入居者への看護と多職種連携 14. 在宅看護におけるこれから (1) 海外における在宅ケア ・ドイツの在宅ケア ・アメリカの在宅ケア ・オランダの在宅ケア (2) 日本における地域に広がる看護 ・マギーズ東京 ・だんだん会 ・看護小規模多機能型居宅介護 15. まとめ 「今後の日本における在宅看護の発展にむけて」 			講義・GW
評価	方法：レポート 配点：レポート：100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ①地域療養を支えるケア メディカ出版 ナーシンググラフィカ 地域・在宅看護論 ②地域療養を支える技術 メディカ出版		

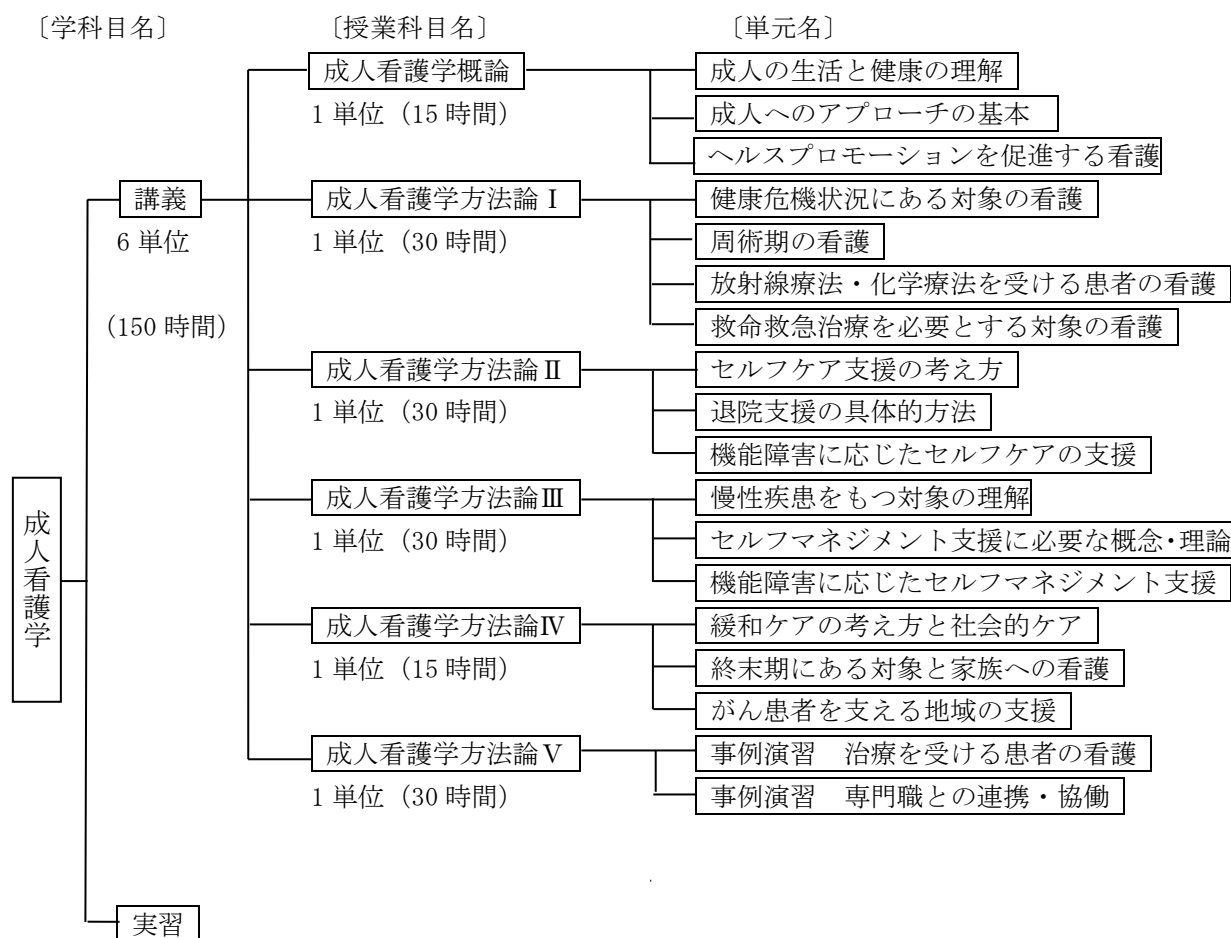
成人看護学

<成人看護学の考え方>

成人期にある人は、成長・成熟の過程にあり、多様な経験を通して独自の価値観を形成しながら、家庭や職場、地域社会において責任ある役割を担って生活している。一方で、生活習慣やストレス、加齢に伴う身体機能の変化により健康障害が生じやすく、その影響は個人や家族のみならず、地域社会にも大きな影響を及ぼす。

そのため、成人看護学では対象の生活背景や価値観を理解しその人がもつ力を活かしながら、健康状態に応じた看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を学ぶ。

<成人看護学の構成>



*実習は実習要項参照

科目名	単位数	開講期	担当講師
成人看護学方法論Ⅲ	1単位 (30時間)	2年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>慢性疾患をもつ対象は、生涯にわたって療養行動が必要であり、病気と折り合いをつけながら社会や家庭での役割を果たすことが求められる。慢性疾患をもつ対象の多様な価値観や生き方を理解し、自分自身で病気をマネジメントしていける力を身につけ、その人らしい生活をめざした看護について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもって生活する人々が直面する困難について理解する。 セルフマネジメントの支援に必要な概念・理論について理解する。 セルフマネジメントを推進していくプロセスについて理解する。 機能障害に応じたセルフマネジメント支援について理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患をもつ対象の理解 ～ 3. セルフマネジメントの支援に必要な概念・理論 <ol style="list-style-type: none"> エンパワメントモデル 自己効力理論 変化のステージモデル 病みの軌跡 症状マネジメントのための統合的アプローチ ～ 5. 心不全の患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 症状・徴候の判断 セルフマネジメント支援 心臓リハビリテーション ～ 8. 糖尿病患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> セルフマネジメント支援 ～ 10. 自己血糖測定、インスリン自己注射 ～ 12. 慢性閉塞性肺疾患の患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 症状・徴候の判断 セルフマネジメント支援 ～ 14. 慢性腎臓病患者の看護 <ol style="list-style-type: none"> 症状・徴候の判断 セルフマネジメント支援 透析患者の看護 			講義 演習 講義 講義 講義・演習 講義
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント メディカ出版 ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 メディカ出版 ナーシンググラフィカEX 疾患と看護① 呼吸器 メディカ出版 ナーシンググラフィカEX 疾患と看護② 循環器 メディカ出版 ナーシンググラフィカEX 疾患と看護⑧ 腎/泌尿器/内分泌・代謝 メディカ出版 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 メディックメディア		

科目名	単位数	開講期	担当講師
成人看護学方法論Ⅴ	1単位 (30時間)	3年次 前期	専任教員
<p><狙い></p> <p>成人看護学で学習した知識を活用して紙上事例の看護過程を展開し、成人期の患者の状態を生活背景や強みを含めて全人的にとらえ、看護ケアにつなげていくための臨床判断能力を培う。また、治療過程での意思決定支援において、看護職として倫理的に判断し支援する役割を学び、対象を中心としてよりよい看護の提供に向け、保険医療福祉チームの一員として多職種と連携・協働する能力を培う。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象の治療や身体機能の変化が、生活やセルフケア能力に及ぼす影響を理解できる。 2. 対象の状態や退院後の生活を見据えて、健康の回復に向けた看護計画を立案できる。 3. フィジカルアセスメントを行い、対象の状態変化やそれに伴うリスクを的確に判断できる。 4. 治療をうける対象のニーズをとらえ、倫理的判断に基づいた意思決定支援の方法を理解する。 5. チームにおける看護師の役割を理解し、ケアの質向上に向けて多職種と連携・協働するあり方を説明できる 			
授業計画			学習方法
<p>1～8. 治療を受ける患者の看護</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 治療を受ける患者の特徴、倫理的課題 (2) 大腸がん患者の看護 (3) 看護過程の展開 (4) フィジカルアセスメントと援助の実施 (技術演習) (5) 倫理的意思決定支援・チームカンファレンス (事例検討) <p>9～14. 多職種との連携・協働 (事例検討)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 患者のアセスメント (2) 多職種での情報共有と目標設定 (3) チームカンファレンス (4) チームの中での看護師の役割 <p>15. 患者の健康の回復を支援するための多職種連携・協働 まとめ</p>			<p>講義 演習</p> <p>講義 グループ ワーク</p> <p>講義</p>
評価	<p>方法：レポート 配点：レポート100点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ EX3巻 消化器 ナーシンググラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 ナーシンググラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 ナーシンググラフィカ 成人看護学③ セルフマネジメント ナーシンググラフィカ 成人看護学⑤ リハビリテーション看護</p> <p>冊子 根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術</p>		<p>メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版 メディカ出版</p> <p>医学書院</p>

老年看護学

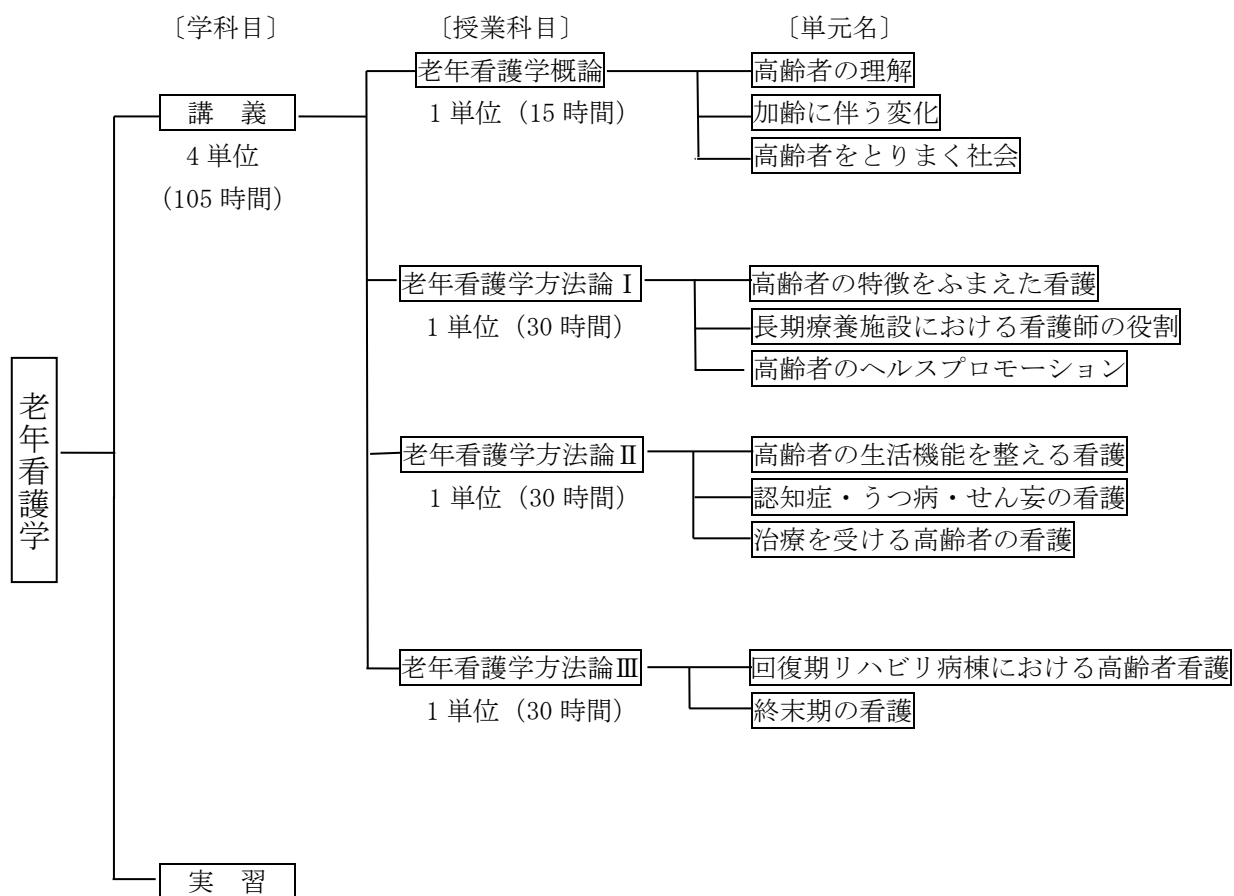
<老年看護学の考え方>

我が国は、先進諸国の中でも類を見ない速さで超高齢社会へ突入し、高齢者が単なる「長生き」であるだけでなく、価値ある「長寿」が実現するように保健・医療・福祉の面だけではなく、他の複雑かつ多様な要素も考慮し、高齢者対策を進めていくことが重要である。

このような社会背景の中、様々な健康状態と多様な生活歴を有する高齢者に、質の高い看護を提供するために、老年看護においては、加齢に伴う身体機能、心理・精神機能、社会的機能の変化、そして文化・社会的影響などについての知識が求められる。そして、高齢者の特性を理解した上で、高齢者の潜在能力・現存機能やその人のもつ強みを見出し、その人らしく、健やかに生活できるように支援していく必要がある。

そこで老年看護学では、高齢者のヘルスアセスメントを的確に行い、高齢者の健康課題を解決するために高齢者のこれまで培った強みを活かした看護が実践できる基礎的能力を養う。また、老年期は人生のエンドオブライフ期であるが、生活の場がどこにあっても高齢者自身の尊厳を重視し、より豊かな生活を送ることができるよう多様な技術をもって支援する事を学ぶ。

<老年看護学の構成>



*実習は実習要項参照

科目名	単位数	開講期	担当講師
老年看護学概論	1 単位 (15 時間)	1 年次 後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>ライフサイクルにおける老年期を捉えた上で、老いるということ、老いて生きるということについて学ぶ。そのため、老年期の特徴、高齢者の身体的・心理的・社会的側面の変化について理解していく。また、高齢者が生活している社会と高齢者を支える保健医療福祉の動向について学び、高齢者看護の基本について理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解する。 2. 高齢者が生きてきた時代背景について理解する。 3. 加齢に伴う身体的変化が高齢者の生活に与える影響について説明できる。 4. 高齢者を支える法律や制度を理解する。 5. 地域包括ケアシステムについて理解する。 			
授業計画			学習方法
<p>1～3. 高齢者の特徴</p> <p>(1) 老年期の発達課題 (2) 高齢者の健康</p> <p>(3) 高齢者にとっての QOL (4) 高齢者の生きてきた時代</p> <p>4～7. 加齢に伴う変化</p> <p>(1) 身体機能の変化</p> <p>(2) 心理・精神機能の変化</p> <p>(3) 社会的機能の変化</p> <p>(4) 高齢者疑似体験</p> <p>8. 高齢者が生活する場と高齢者を支える法律・制度やシステム</p> <p>(1) 高齢者が生活する場の特徴</p> <p>(2) 医療保険制度</p> <p>(3) 介護保険制度</p> <p>(4) 人権に関する制度</p> <p>(5) 地域包括ケアシステム</p>			<p>講義</p> <p>講義</p> <p>演習</p> <p>講義</p>
評価	<p>方法：筆記試験・レポート</p> <p>配点：筆記試験 80 点、レポート 20 点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
老年看護学方法論 I	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>高齢者が地域でその人らしく生活できることをめざし、切れ目のない医療・ケア体制・公的サービスと多職種連携も含めた看護のあり方を学ぶ。そして、高齢者が健康に生活していくためにヘルスプロモーションを維持・増進することの必要性、高齢者の健康増進を支える法律・制度・組織について理解し、長期療養施設で生活する高齢者の看護を行なう看護師の役割について学んでいく。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の特徴をふまえた看護について理解できる。 2. 長期療養施設で生活する高齢者の特徴と看護師の役割について理解できる。 3. 高齢者のリスクとリスクマネジメントについて理解する 4. 高齢者のヘルスプロモーションの必要性について理解できる。 5. 健康増進プログラム・介護予防プログラムの要点について理解できる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～6. 高齢者看護の基本</p> <p>(1) 高齢者看護の基本 (2) 高齢者看護に関わる諸理論</p> <p>(3) 高齢者看護における倫理 (4) 高齢者に対するアセスメント</p> <p>(5) 高齢者のバイタルサインの特性 (6) 高齢者によくみられる疾患</p> <p>(7) 高齢者に起こりやすい疾患の特徴</p> <p>7～8. 長期療養施設の特徴と看護師の役割</p> <p>(1) 介護保険施設</p> <p>(2) デイサービス・デイケア</p> <p>(3) 地域密着型サービス</p> <p>9～10. 高齢者看護におけるチームアプローチと高齢者のリスクマネジメント</p> <p>11～15. 高齢者のヘルスプロモーション</p> <p>(1) 高齢者の健康づくり (2) 生活習慣病予防</p> <p>(3) 転倒予防 (4) 認知症予防</p> <p>(5) 健康増進プログラム</p>			<p>講義</p> <p>講義</p> <p>講義</p> <p>演習</p>
評価	<p>方法：筆記試験・レポート</p> <p>配点：筆記試験 80 点、レポート 20 点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
老年看護学方法論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次 後期	外部講師
<p><ねらい> 臨床でよくみられる症状や疾患、治療におけるケアの特徴、認知症・うつ病・せん妄について理解する。そして、様々な健康状態にある高齢者のヘルスアセスメントを的確に行い、個々の生活機能評価をもとに高齢者のもてる力を引き出し、生活を支える看護について学んでいく。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生活（食生活、排泄、清潔・衣生活・活動と休息、歩行・移動）を支える看護について理解する。 2. 高齢者の呼吸・循環機能、高齢者に特徴的な症状や疾患を支える看護について理解する。 3. 認知症高齢者と家族へのケアについて理解する。 4. 高齢者におけるうつ病とせん妄の特徴、予防、援助について理解する。 5. 高齢者の薬物療法の注意点や有害反応を理解し、高齢者の服薬行動・管理について学ぶ。 6. 高齢者に生じやすい術後合併症とその看護について理解する。 7. 高齢者の退院における課題と支援方法について理解する。 			
授業計画			学習方法
<p>1～ 9. 高齢者の生活機能を整える看護</p> <p>(1)食生活を支える看護 (2)排泄を支える看護</p> <p>(3)清潔・衣生活を支える看護 (4)活動と休息を支える看護</p> <p>(5)歩行・移動を支える看護</p> <p>(6)呼吸・循環機能障害を支える看護</p> <p>(7)その他高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護</p> <p>10～13. 認知症・うつ病・せん妄の看護</p> <p>14～15. 治療を受ける高齢者の看護</p> <p>(1)薬物療法</p> <p>(2)手術療法</p> <p>(3)入院・退院支援</p>			<p>講義</p> <p>講義</p>
評価	<p>方法：筆記試験</p> <p>配点：筆記試験 100 点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践 メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
老年看護学方法論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	3 年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>在宅生活に向けて療養生活をする高齢者を生活機能の視点から理解し、高齢者のもつ強みにアプローチしていく支援の方法について学ぶ。そして、高齢者がその人らしく生活することを支える看護について理解する。また、高齢者が最期までその人らしく生きることを支える終末期看護について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 回復期リハビリテーション病棟における看護師の役割と地域との連携について理解できる。 2. 高齢者を生活機能の視点から理解する考え方について説明できる。 3. 高齢者の強みを捉えた看護について理解できる。 4. 高齢者の終末期における看護について理解できる。 			
授業計画			学習方法
1.	リハビリテーションを担う医療施設の特徴と看護 (1) 回復期リハビリテーションとは (2) 回復期リハビリテーションで求められる看護師の役割 (3) 回復期や維持期への移行と多職種連携のあり方		講義
2.	地域連携の実際と看護師に求めること		講義
3～5.	高齢者の特性を生かした看護過程の考え方		講義
6～11.	事例展開の実際 事例：「回復期リハビリテーション病棟に入院しているA氏」		演習
12～14.	終末期の看護 (1) 高齢者の死と医療・ケア (2) 終末期の身体的アセスメントと看護 (3) 精神的苦痛や不安・混乱に対する看護 (4) 家族の心理と看護		講義
15.	アドバンスケアプランニング		
評価	方法：筆記試験・レポート 配点：筆記試験：30点、レポート：70点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実際 メディカ出版		

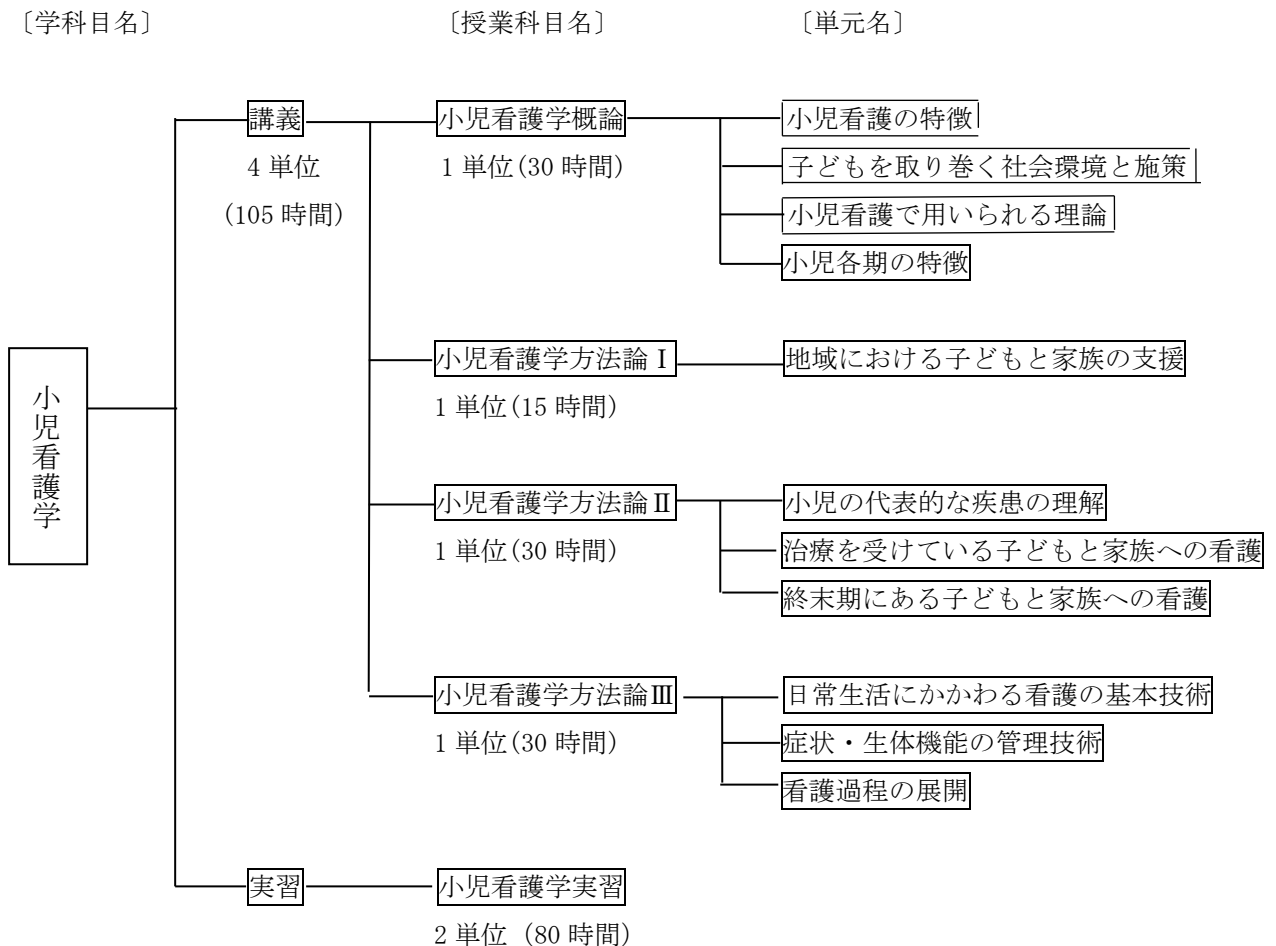
小児看護学

＜小児看護学の考え方＞

小児看護は、大人への成熟過程にあるあらゆる健康レベルの子どもと子どもを育む家族が対象となる。子どもが健やかに発達し生きていくことができるように、家族と看護者がパートナーシップを形成し、子どもにとっての最善のケアを提供することができるように取り組むことが重要な役割となる。

小児看護学では、子どもの成長・発達の特徴を学び、さまざまな健康レベルの子どもと家族へ支援するための看護実践に必要な基礎的知識と技術を学ぶ。また、権利を有する一人の人として子どもを尊重し看護を実践できることをめざす。

＜小児看護学の構成＞



科目名	単位数	開講時期	担当講師
小児看護学概論	1 単位 (30 時間)	2 年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>小児看護の中心となる子どもの特徴を理解していく。新生児期から思春期までの身体的成長、機能的発達、心理社会的発達を学習することでライフサイクルを意識し、成長・発達を理解できるようにする。子どもが影響をうける社会環境を理解し、小児看護の問題を学ぶとともに今後の小児看護学の課題を学習する。さらに、子どもの基本的人権を学習し、子どもを尊重する態度について考えることができる。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児看護の特徴を様々な視点から理解する。 2. 子どもをめぐる法律と施策を理解する。 3. 小児各期の成長・発達を理解する。 			
授業計画			学習方法
<p>1～3. 小児看護の特徴と理念</p> <p>(1)小児看護の対象と目的 (2)小児看護の変遷と課題</p> <p>(3)小児医療と子どもの権利 (4)倫理的配慮</p> <p>4～5. 小児看護と法律・施策</p> <p>(1)子どもを取り巻く社会環境 (2)母子保健施策と法律</p> <p>6～7. 小児看護で用いられる理論</p> <p>8. 子どもの成長・発達</p> <p>(1)成長・発達の一般的原則と影響する要因</p> <p>(2)成長・発達の評価</p> <p>9～12. 小児各期の成長・発達と看護</p> <p>(1)乳児期の子どもの成長・発達と看護</p> <p>(2)幼児期の子どもの成長・発達と看護</p> <p>(3)学童期の子どもの成長・発達と看護</p> <p>(4)思春期の人々の成長・発達と看護</p> <p>13. 子どもを育む家族の特徴と看護</p> <p>(1)子どもにとっての家族とは</p> <p>(2)各期の子どもの家族への看護</p> <p>14～15. 「読み聞かせ」をとおした子どもとのコミュニケーションと発達</p>			<p>講義</p> <p>講義 グループワーク</p> <p>講義 グループワーク</p> <p>講義 グループワーク</p>
評価	<p>方法：筆記試験・レポート</p> <p>配点：筆記試験 80 点、レポート 20 点</p>		
テキスト	<p>ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の疾患と看護 メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
小児看護学方法論Ⅰ	1 単位 (15 時間)	2 年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>小児期は成長・発達の途中にあり、その中で発達課題を達成するために家族・社会からの養育・支援が必要となる。ここでは、地域で生活する子どもと家族に対する支援の実際を学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における子どもと家族の支援を理解する。 2. 地域で生活している子どもと家族の看護について理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域における子どもと家族への支援 2～3. 地域における子どもと家族への発達支援 4. 在宅における子どもと家族への看護 (経管栄養法 含む) <ol style="list-style-type: none"> (1)小児在宅ケアの現状 (2)子どもと家族への看護 5～6. 心身に障害のある子どもと家族への支援 <ol style="list-style-type: none"> (1)障害のとらえ方 (2)子どもと家族の特徴、支援の視点 7. 虐待を受けている可能性のある子どもと家族への支援 <ol style="list-style-type: none"> (1)虐待の定義 (2)虐待が子どもに与える影響 (3)子どもおよび家族への支援 8. 地域で生活する子どもと家族への看護 			講義 講義 講義 講義 講義 講義 講義
評価	方法：筆記試験・レポート 配点：筆記試験 70 点、レポート 30 点		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① 小児の疾患と看護 メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
小児看護学方法論Ⅱ	1 単位 (30 時間)	2 年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>子どもの健康障害は、出生前の発症要因により出生時に認められる場合や、成長・発達の経過のなかで生じ、急性または形態的・機能的変化と共に慢性に経過することもある。疾患による症状や日常生活に及ぼす影響を最小限にするよう努め、残された機能を最大限発揮して生きていけるよう、子どもと家族を支援する治療・看護が期待される。</p> <p>ここでは、小児期に代表的な疾患の特徴を理解し、健康障害をもつ子どもと家族への看護について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期に代表的な疾患の病態・症状・検査・治療を理解する。 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解する。 3. 障害の経過や状況に応じた看護を理解する。 			
授業計画			学習方法
1.	新生児疾患、遺伝性疾患・染色体異常		講義
2.	感染症、呼吸器疾患、循環器疾患		
3.	消化器疾患、血液疾患、腫瘍疾患		
4.	神経疾患、運動器疾患、神経発達症・心身医学的問題		
5～6.	健康障害や入院が子どもと家族に及ぼす影響と看護 (1)子どもの病気の理解 (2)健康障害に伴う子どもと家族のストレス (3)子どもと家族のストレス対処への支援		講義 グループワーク
7.	外来における子どもと家族への看護 (1)外来看護の果たす役割 (2)子どもと家族への看護		講義
8～11.	治療を受けている子どもと家族への看護 (1)症状のアセスメントの看護 「肺炎・ネフローゼ症候群・Ⅰ型・Ⅱ型糖尿病の子どもと看護」 (2)応急処置・救急救命		講義
12～13.	集中治療を受けている子ども・ハイリスク新生児と家族への看護 (1)集中治療を受けている子どもと家族への看護 (2)ハイリスク新生児と家族への看護		講義
	14～15. 終末期にある子どもと家族への看護		講義
評価	方法：筆記試験・レポート 配点：筆記試験 90 点、レポート 10 点		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学① ナーシング・グラフィカ 小児看護学③	小児の発達と看護 小児の疾患と看護	メディカ出版 メディカ出版

科目名	単位数	開講時期	担当講師
小児看護学方法論Ⅲ	1 単位 (30 時間)	2 年次 後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>看護の場面や事例をとおして、基礎看護技術を発展させて子どもの健康状態を把握する技術を学び、小児看護の対象である子どもと家族に必要な看護を理解する。また、子どもの権利を尊重する看護について考える。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの成長・発達段階にあわせた看護技術を理解する。 2. 事例をもとに、急性期から長期にわたり継続支援が必要な子どもと家族への看護について理解する。 			
授業計画			学習方法
1～3.	日常生活にかかわる看護の基本技術		講義 演習
	(1)環境・睡眠	(2)食事	
	(3)排泄	(4)清潔・衣生活	
	(5)呼吸・循環を整える	(6)与薬	
4～6.	症状・生体機能の管理技術		講義 演習
	(1)バイタルサイン測定	(2)身体計測	
	(3)検体の採取	(4)静脈内点滴注射	
7～9.	検査や処置を受ける患儿と家族への看護		講義 ロールプレイ
	(1)アセスメント	(2)計画立案	
	(3)看護支援（ロールプレイ）	(4)振り返りと学び	
10～15.	事例展開の実際		講義 ロールプレイ
	事例：「川崎病の診断がされた子どもと家族への看護」		
	(1)事例の病態生理	(2)アセスメント	
	(3)計画立案	(4)看護支援（ロールプレイ）	
	(5)振り返りと学び	(6)まとめ	
評価	<p>方法：筆記試験・レポート</p> <p>配点：筆記試験 50 点、レポート 50 点</p>		
テキスト	ナーシング・グラフィカ 小児看護学①	小児の発達と看護	メディカ出版
	ナーシング・グラフィカ 小児看護学②	小児看護技術	メディカ出版
	ナーシング・グラフィカ 小児看護学③	小児の疾患と看護	メディカ出版

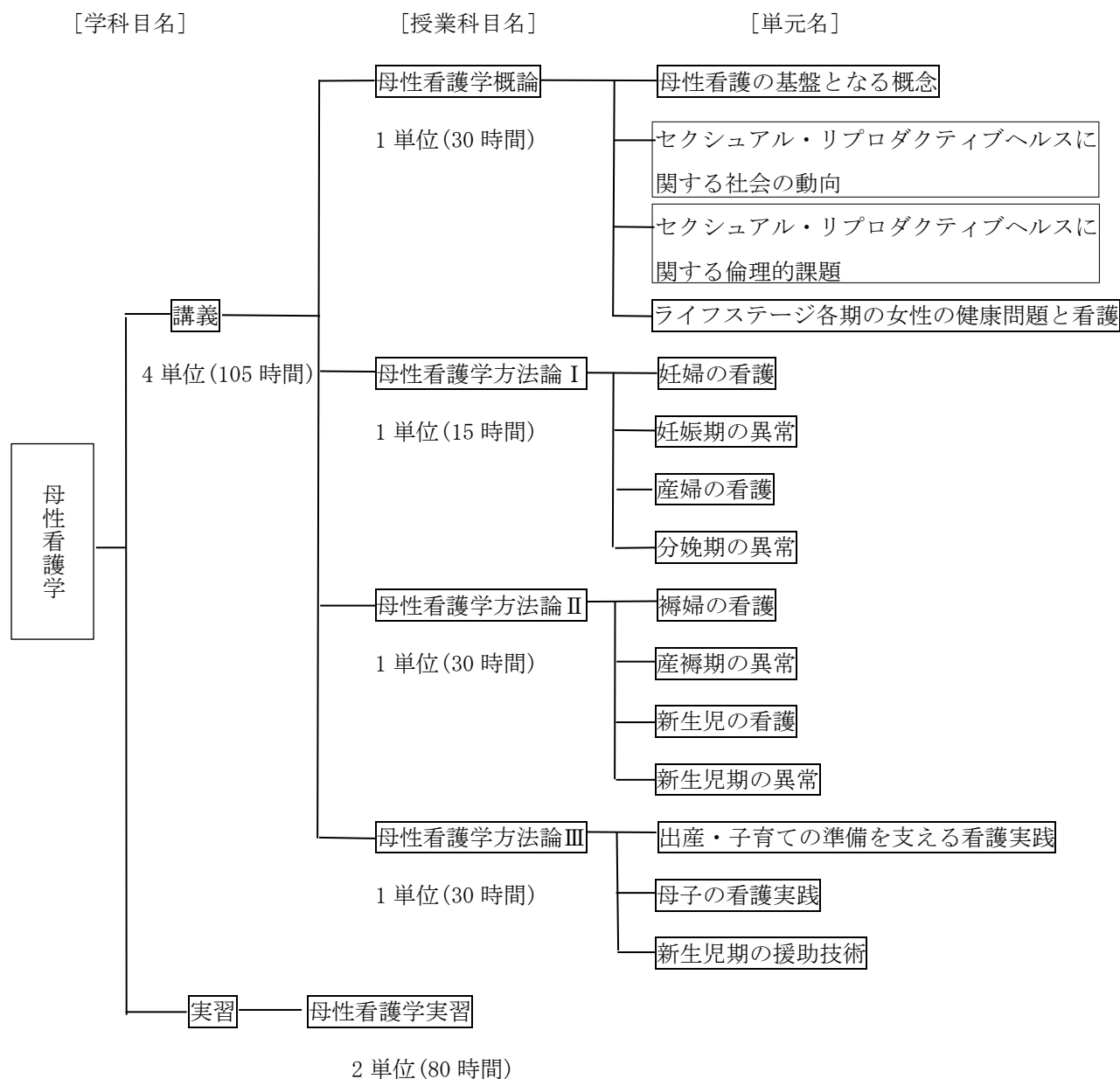
母性看護学

<母性看護学の考え方>

母性看護はセクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツの保障を前提とし、女性のライフサイクルにおける身体的・心理的・社会的な成長発達を促進するための支援である。女性の身体構造と機能は初経とともに著しい成長発達を遂げて性成熟を迎え、やがて閉経する。その変化は健康な子どもを産み育てる過程であり、女性のQOLに大きな影響を及ぼす。女性が多様なライフコースを辿る現代社会において、個人の価値観を尊重したリプロダクティブヘルスおよび子育てについての支援が求められている。

母性看護学では女性の性と生殖の健康を守り、次世代の健全な育成を目指して、女性自らが自身の健康を維持・増進するための支援を学ぶ。そのなかでも性成熟を迎えた身体機能を発揮する妊娠・出産の時期を中心とした母子の健康水準を維持・向上し、親となり子が育つのを支える看護実践の基礎を身につけたい。さらにセクシュアリティやジェンダー、新たな命に関する倫理的課題について考えを深め、対象の人格を尊重し生命の尊厳を守るために必要な能力を養う。

<母性看護学の構成>



科目名	単位数	開講期	担当講師
母性看護学概論	1単位 (30時間)	2年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>母性看護の対象を理解し、母性看護およびセクシュアル・リプロダクティブヘルスの概念に基づく母性看護の理念を学ぶ。また母子保健の歴史の変遷と社会の動向からセクシュアル・リプロダクティブヘルスについての倫理的課題と関連する法・制度を学び、地域社会における子どもと女性の保護・支援システムおよび看護の責務と役割を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 母性看護とリプロダクティブヘルスの中心概念について説明できる。 2. 母性看護の役割、法的責任と倫理について説明できる。 3. ライフステージ各期の女性の健康課題と必要な支援がわかる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～2. 母性看護の中心理念と看護実践の基盤となる概念</p> <p>3～4. セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する概念</p> <p>(1)セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ</p> <p>(2)セクシュアリティとジェンダー</p> <p>(3)包括的セクシュアリティ教育</p> <p>5～6. セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する動向</p> <p>(1)出生、死亡、家族形態、性行動・性感染症に関する統計</p> <p>7～8. セクシュアル・リプロダクティブヘルスに関する法や施策と支援</p> <p>9～10. リプロダクティブヘルスに関する倫理</p> <p>11. 特殊なニーズをもつ妊産婦と家族への支援</p> <p>12～15. 性・生殖における健康問題と看護</p> <p>(1)思春期女性の健康問題と看護</p> <p>(2)性成熟期女性の健康問題と看護</p> <p>(3)更年期女性の健康問題と看護</p> <p>(4)老年期女性の健康問題と看護</p>			<p>講義</p> <p>グループワーク</p>
評価	<p>方法：筆記試験・レポート</p> <p>配点：筆記試験80点、レポート20点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 国民衛生の動向 厚生統計協会 メディカ出版</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
母性看護学方法論Ⅱ	1単位 (30時間)	2年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>褥婦・新生児の生理的な身体の変化を妊娠、分娩期からの影響を理解し、健康の維持増進と正常からの逸脱を予防するために必要な看護を学ぶ。母子関係を確立し、新たな家族関係の構築を促して子どもが健全に育つために必要な支援と褥婦のセルフケアを支える看護について学ぶ。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥の生理を説明できる。 2. 胎児の母体外環境への適応が説明できる。 3. 産褥期の女性、および新生児に必要な看護を説明できる。 			
授業計画			学習方法
1～5. 褥婦の看護	(1)産褥期の定義と看護師の役割 (2)産褥の生理 (3)褥婦のアセスメントと看護 (4)産褥期の異常		講義
6～8. 乳房の生理機能と乳汁分泌メカニズムに基づいた母乳育児支援	(1)授乳の観察と評価 (2)褥婦の進行性変化と新生児の生理的变化の関連性 (3)母乳育児支援		演習
9～12. 新生児の看護	(1)新生児期における看護師の役割 (2)新生児の生理的变化の関連性 (3)フィジカルイグザミネーション (4)新生児期の異常		講義
13～15. 新生児のアセスメントと支援	(1)出生後24時間以内の支援 (2)24時間以降から退院に向けた支援		演習 講義
評価	方法：筆記試験・レポート 配点：筆記試験70点、レポート30点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
母性看護学方法論Ⅲ	1単位 (30時間)	2年次 後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>本科目で学んだ知識とスキルを統合し、紙上事例および模型を用いて看護過程を展開する。母性看護の実践を通して、母子の健康と親になる過程を促すことをめざし、女性とその家族を中心としたケアについて理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 妊婦のセルフマネジメントに必要な看護が理解できる。 2. 分娩の進行を理解し、産褥期への影響を考慮することができる。 3. 産褥期の母子の看護過程が展開できる。 4. 新生児の生理的特徴をふまえた環境整備ができる。 5. 安全に新生児の援助が実施できる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～4. 妊婦の健康維持と出産・子育ての準備のための看護</p> <p>(1) 妊婦健康診査</p> <p>(2) 妊婦への看護</p> <p>5～6. 産婦の看護</p> <p>(1) 分娩進行状態の観察</p> <p>(2) 産婦の基本的ニーズへのケア</p> <p>7～12. 褥婦の日常生活とセルフケア、母親になることへの看護</p> <p>パフォーマンス課題：育児支援</p> <p>13～15. 新生児のフィジカルアセスメントと看護技術</p> <p>(1) 新生児のフィジカルアセスメント</p> <p>(2) 環境調整技術</p> <p>(3) 清潔援助</p>			<p>講義 グループワーク</p> <p>講義 演習</p>
評価	<p>方法：レポート・パフォーマンス評価</p> <p>配点：レポート80点、パフォーマンス評価20点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ 母性看護学② 母性看護の実践 メディカ出版</p> <p>ナーシンググラフィカ 母性看護学③ 母性看護技術 メディカ出版</p>		

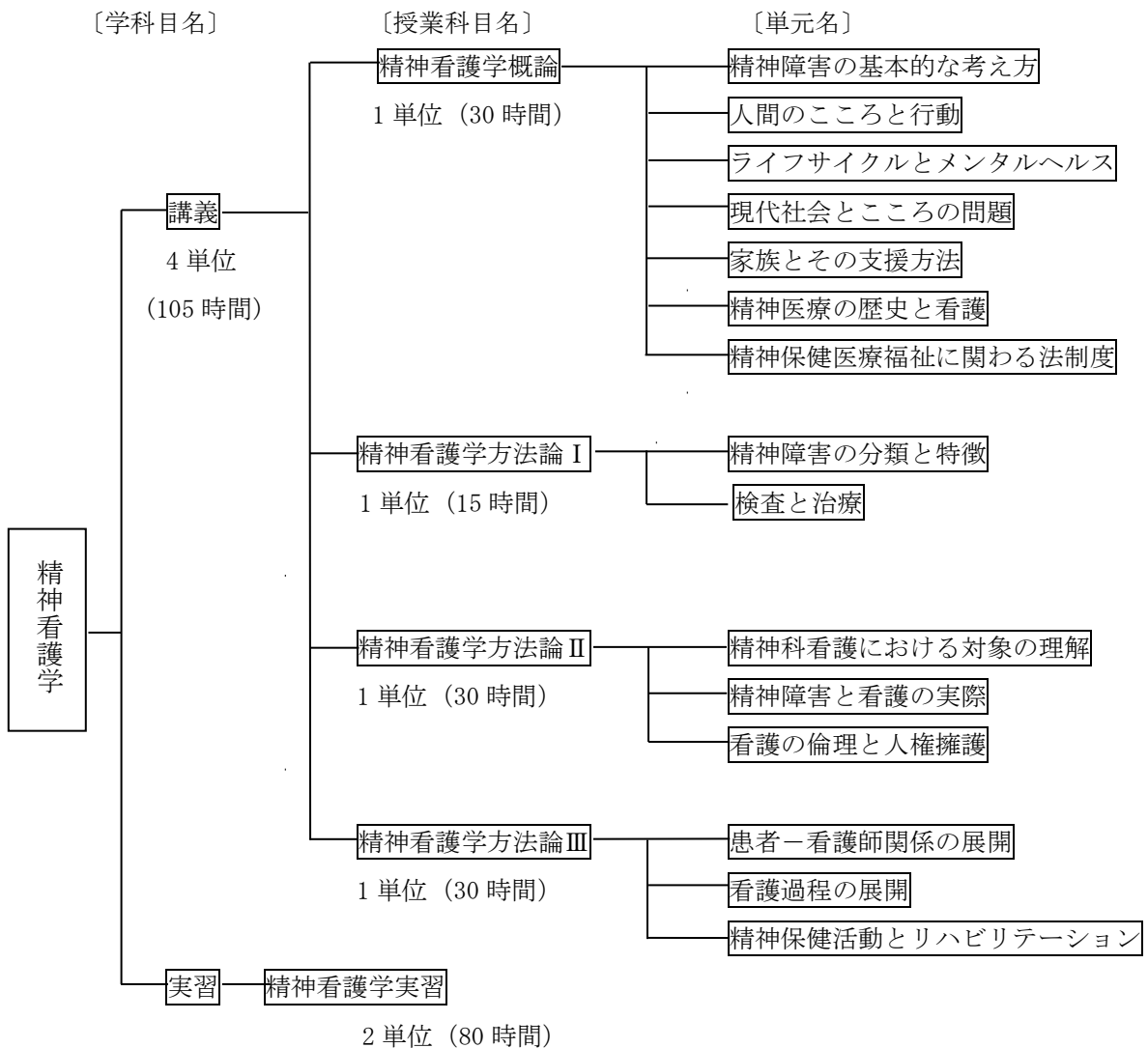
精神看護学

<精神看護学の考え方>

精神看護の対象は、危機を乗り越えながら自己実現を目指そうとする人であり、あらゆる健康状態・発達段階にある人である。複雑な社会情勢や時代の変化と共に精神障害の分類やとらえ方、疾患の種類は変化しており、治療法の複雑化に伴い精神看護の専門性も問われている。そのため、精神看護学では、こころの健康についての理解と精神障害についての理解を深め、メンタルウェルネスの視点で対象に必要な支援についての学びを深める。

合わせて、対象を理解する過程そのものが看護であり、患者 - 看護者間における力動関係は治療環境に深く関わっているため、治療的関係の構築・発展に必要な専門的知識や援助技術についても学習していく。

<精神看護学の構成>



科目名	単位数	開講期	担当講師
精神看護学概論	1単位 (30時間)	1年次 後期	外部講師
<p><ねらい></p> <p>現代社会の多様な変化は、こころや人々の関係に様々な歪みをもたらしている。精神の障害は誰にでも起こりうる健康障害であり、国民の健康にとって大きな問題である。そのため多くの人がメンタルヘルスに対する関心とニーズを持っている。</p> <p>精神看護学概論では、ライフサイクルにおけるこころの発達と健康について学び、人間のこころを見る視点、ライフイベント・ストレスの影響、こころの防衛機制、その危機と回復について理解する。また、精神医療・看護の歴史を学び、ノーマライゼーションの考え方を基盤に精神障害に対する偏見に気づき、精神看護の視野を広めるとともに、精神保健活動について理解し、保健医療福祉のチームの一員としての役割を考える。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. こころの健康と障害のとらえ方を理解する。 2. ライフサイクルとストレスを理解し、危機に対する反応とプロセスを理解する。 3. 精神医療の変遷について概観し、それぞれの時代における特徴を理解する。 4. 精神医療に関する法の変遷を知り、現代の精神保健医療における問題点と看護師の役割を理解する。 			
授業計画			学習方法
1～3. 精神障害についての基本的な考え方 4. 人間のこころと行動、環境 5. リカバリーとその支援 6. 人格の発達と情緒体験 7～8. ライフサイクルとメンタルヘルス 9～10. 現代社会とこころの問題 11. 家族とその支援方法 12～13. 精神医療の歴史と看護 14～15. 精神保健医療に関わる法制度の変遷 精神保健福祉法の基本的な考え方			講義
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
精神看護学方法論 I	1単位 (15時間)	2年次 前期	外部講師
<p><ねらい> 複雑な社会情勢や時代の変化と共に、精神障害の分類やとらえ方、疾患の種類は変化しており、治療も複雑化している。精神に障害をもつ人が地域や病院でその人らしく生活することを支援するため、精神疾患やその診断、検査・治療について学び、症状や状態によってもたらされる生活への影響を理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 精神機能および精神症状について理解する。 2. 精神疾患の特徴と症状、検査、治療について学び、障害が日常生活に及ぼす影響を理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神疾患総論－精神疾患と精神症状 神経発達症の診断と特徴、治療 2. 統合失調症の診断と特徴、症状・治療 3. 抑うつ障害の診断と特徴、症状・治療 4. 双極性障害の診断と特徴、症状・治療 5. 不安障害の特徴、症状・治療 6. 強迫性障害・ストレス因関連障害の診断と特徴、症状・治療 7. 解離性障害、身体症状及び関連症の診断と特徴、症状・治療 8. 摂食障害と睡眠 - 覚醒障害の特徴と治療 物質関連障害とパーソナリティ障害の特徴と治療 			講義
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
精神看護学方法論Ⅱ	1単位 (30時間)	2年次 後期	外部講師
<p><ねらい> 対象を全人的に把握するために必要な系統的情報の内容を理解する。また、対象を取り巻く環境や対人関係の中で生じてくる葛藤や問題を、個人の生育歴と照らし合わせながら理解する必要性について学ぶ。合わせて、様々な疾患の特徴をふまえた看護の実際についての理解を深める。</p> <p><到達目標> 1. 精神障害を持つ対象を理解するために必要な視点について理解する。 2. 精神科における援助の特徴と意義を学び、その具体的な援助方法を理解する。 3. 医療における患者の権利や処遇を学び、精神障害者のアドボカシーの考え方を理解する。</p>			
授業計画			学習方法
1～3. 精神科看護における対象の理解 (1) ヒストリーを読む (2) 精神・情緒状態の把握 (3) セルフケアレベルの把握 (4) 対人交流のパターンの把握 4. 精神科看護におけるケアの方法① (1) 治療的関わりの考え方 5. 精神科看護におけるケアの方法② (1) 日常生活行動の援助 6. 精神科看護におけるケアの方法③ (1) 服薬治療に関わる援助 7. 生活障害と看護の実際① (1) 統合失調症のケース(急性期、慢性期) 8. 生活障害と看護の実際② (1) パーソナリティ障害のケース 9. 生活障害と看護の実際③ (1) うつ病のケース (2) パニック障害のケース 10. 入院環境と治療的アプローチ 11～12. 事例検討 13～14. 生活障害と看護の実際④ アディクション看護 (1) アルコール依存症のケース (2) 薬物依存症のケース (3) 摂食障害のケース 15. 看護の倫理と人権擁護			講義
評価	方法：筆記試験 配点：筆記試験100点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学① 情緒発達と精神看護の基本 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実際 メディカ出版		

科目名	単位数	開講期	担当講師
精神看護学方法論Ⅲ	1単位 (30時間)	3年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>精神看護は、対象と治療的関係を構築しながら生活援助を行うという特徴がある。ここでは、対象との治療的関係とは何かを理解し、治療的コミュニケーションの基本的技法と自己を内観することの重要性を学ぶ。また、紙上事例を用いて精神障害が及ぼす日常生活への影響をイメージし、対象らしく生活するための看護を学ぶ。また、日本の精神医療における社会的入院や長期入院、回転ドア症候群、院内寛解といった現状をふまえ、精神医療におけるリハビリテーションの意義とサポートシステムを理解し、対象の生活力を取り戻すための支援について考える。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 援助者自身が治療的環境の一部であることを理解する。 2. 援助関係を発展させる技術としてのコミュニケーションを理解する。 3. プロセスレコードの意義がわかり、自己の振り返りの技法が理解できる。 4. 精神看護の特徴をふまえた看護過程の展開が理解できる。 5. 患者 - 看護師関係の各段階と、各段階達成のために必要な関わりについて理解できる。 6. 精神医療におけるリハビリテーションの意味を理解する。 7. 患者が主体的に生活していく上での支援の方法を理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 治療的関わりとプロセスレコード 治療的コミュニケーションの基本的技法 2～3. プロセスレコード記載の実際 4. 患者 - 看護師関係について 5～8. 精神疾患をもつ対象への看護 (1)アセスメントの視点 (2)看護計画立案 (3)ターミネーション計画立案 9～11. 治療的関わりの方場のリフレクション 12～13. 精神科リハビリテーションの考え方 14～15. 地域精神保健活動における社会資源の活用 			講義 グループ ワーク
評価	方法：筆記試験・レポート 配点：筆記試験40点、レポート60点		
テキスト	ナーシンググラフィカ 精神看護学② 精神障害と看護の実践 メディカ出版		

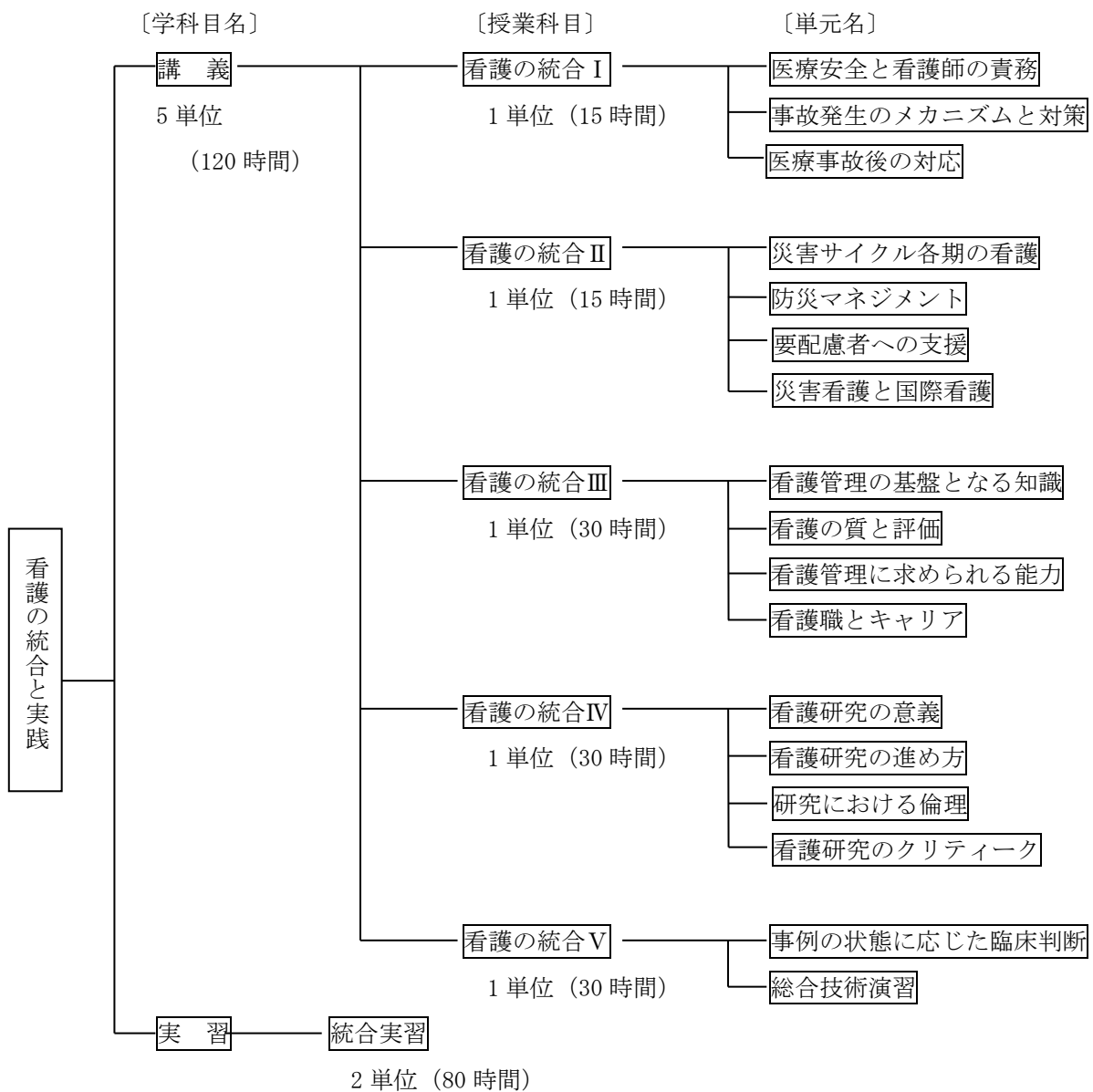
看護の統合と実践

<看護の統合と実践の考え方>

統合分野は卒業後の継続教育に適応できるように、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で学習した知識や技術を統合し学習していく。知識と技術を統合するには1年次からの積み上げが大切であり、医療安全などの基礎的能力を養いながら、他分野における既習の知識・技術を統合し、患者を総合的に捉え、対象にあわせて看護実践できる基礎的能力を身につけることを目標とする。

実習では卒業後の継続教育に適応できるよう、3年間の看護基礎教育の総まとめとして看護実践能力の基盤を育成する内容とする。

<看護の統合と実践の構成>



科目名	単位数	開講期	担当講師
看護の統合Ⅱ	1単位 (15時間)	2年次 前期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>現在、わが国だけではなく世界でも災害が頻発し、災害看護・国際救援の需要が高まっている。身近な災害として胆振東部地震を経験した。災害は広範で深刻な脅威を人々に与える出来事であり、地球規模での具体的な災害への備えや発災後の対応策が必要である。この单元では、災害および災害看護に関する基礎知識を身につけ、平常時から地域全体で備えるとともに、被災時に被災地域や被災者に必要な看護について学ぶ。</p> <p>また、看護は、人種や国籍をこえた普遍性をもつ専門的な任務であるため、国際的な視点での看護を学ぶ必要がある。ここでは、国際協力のための組織・しくみについて理解する。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 災害及び災害看護に関する基礎的な知識ならびに必要な技術を習得する。 2. 国際協力のための組織・しくみを理解する。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の種類と健康被害、災害に関する法制度と支援体制 2. 災害医療活動の特徴 <ol style="list-style-type: none"> (1) 災害サイクル (2) トリアージ (3) 応急処置・治療 (4) 感染症対策 3. 災害初期から中長期における看護活動 4. 災害派遣医療チーム (DMAT) の活動の実際と看護師の役割 5. 災害時に必要な医療・看護技術(止血法、包帯法、搬送法) 6～7. 被災者と支援者の心理の理解と援助 8. 災害時の国際援助と国際協力活動 <ol style="list-style-type: none"> (1) 異文化への配慮と異文化間トランス (2) 国際活動組織 			<p>講義</p> <p>GW 講義・演習 講義</p>
評価	<p>方法：筆記試験 配点：筆記試験100点</p>		
テキスト	<p>ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 冊子 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 MEDICMEDIA</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
看護の統合Ⅲ	1単位 (30時間)	2年次 後期	外部講師・専任教員
<p><ねらい></p> <p>看護の活動の場は病院のみならず地域の保健医療福祉の場へと多様化しており、多職種と連携・協働するなかで看護職には看護サービスを効果的、効率的に提供するための看護管理（マネジメント）能力が求められ、よりよい看護を追求するための看護管理能力は看護職者の誰にでも不可欠な能力である。この能力の基盤として、職業としての看護の発展、現在の看護の仕組みなど、看護管理に必要な基礎的知識を学び、新人看護師としての自覚につながるものとする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 我が国における看護職の成立と発展の歴史が理解できる。 2. 看護職をとりまく諸制度と課題が理解できる。 3. 看護サービスの目的と管理の対象を理解し、看護管理における新人看護師の役割と責任が理解できる。 			
授業計画			学習方法
<p>1～2. 職業としての看護の歴史</p> <p>(1) 職業としての看護の発展：明治期から第2次世界大戦終結まで</p> <p>(2) 職業としての看護の確立</p> <p>①終戦時からの看護改革 ②保健師助産師看護師法の制定と諸制度の変遷</p> <p>3. 職業としての看護の充実、職業としての看護の新たな展開</p> <p>(1) 昭和後期から現在までの看護の変遷 (2) 看護の専門分化、教育、業務範囲</p> <p>4. 看護職の資格、養成制度、就業状況</p> <p>(1) 看護職の資格 (2) 養成制度 (3) 職種別の就業状況と特徴</p> <p>5. 看護職者の継続教育とキャリア開発 (1) 看護基礎教育 (2) 継続教育</p> <p>6. 日本看護協会の認定制度</p> <p>(1) 専門看護師、認定看護師、認定看護管理者の役割と活用の課題</p> <p>7. 看護職者の養成制度の課題</p> <p>(1) 看護養成の現状からみる養成制度の課題と対策</p> <p>(2) 看護基礎教育の内容と課題 (3) 特定行為に係る研修制度</p> <p>8. 看護におけるサービスとは</p> <p>(1) 医療専門職種とその役割 (2) チーム医療について (3) 看護サービス提供の場</p> <p>9. 医療施設における看護</p> <p>(1) 医療施設の理解 (2) 地域における看護・看護の対象と機能 (3) 継続看護</p> <p>10. 看護をめぐる制度と政策</p> <p>(1) 看護制度について (2) 看護政策について</p> <p>(3) 看護にかかわる法規の設置主旨の理解</p> <p>11. 看護政策と経済のしくみの概要、看護サービスの評価</p> <p>12. 看護サービスの管理</p> <p>(1) 看護管理の定義 (2) 看護管理システム</p> <p>13. 看護組織の特徴</p> <p>(1) 職位と役割 (2) リーダーシップとフォロワーシップについて</p> <p>14. 人的資源管理</p> <p>(1) 現在の問題と対策</p> <p>15. 看護管理の目的と新人看護師としての自分の役割と責任（まとめ）</p>			講義
評価	<p>方法：出席率・筆記試験</p> <p>配点：筆記試験 80 点、レポート 20 点</p>		
テキスト	<p>系統看護学講座 看護学概論 医学書院</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
看護の統合Ⅳ	1単位 (30時間)	3年次 前期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>看護師は常に質の高い看護をめざし、問題解決能力や専門職者として研鑽し続ける能力が求められる。そのため、ケーススタディに取り組むことを通して、問題を発見する力、問題を分析する力、クリティカルシンキングの能力、論理的思考力を養う。そして、看護の質の向上に向けて研鑽していく必要性について理解を深める。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究、ケーススタディの意義が理解できる。 2. ケーススタディの進め方が理解できる。 3. 理論や文献を用いて看護実践を分析・解釈し、研究目的に応じた結論を出すことができる。 4. ケーススタディを通して、自己課題を明確にできる。 			
授業計画			学習方法
<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義・役割、ケーススタディの意義 研究における倫理 2～3. ケーススタディの進め方 (1) ケーススタディの構成・内容 (2) 研究疑問の明確化 (3) 文献検索 (4) 研究計画書 (5) 論文のまとめ方 (6) 抄録 (7) 発表 4～5. 理論や文献の適切な活用と理論的分析 (1) 引用のルール (2) 文献リスト (3) 考察の進め方 6～8. クリティーク (1) クリティークとは (2) クリティークの実際 9～11. ケーススタディの実際① (1) 研究疑問の明確化 (2) 研究計画書 12～13. ケーススタディの実際② (1) 理論の理解 (2) 理論との照合 *研究計画書作成後は担当教員と調整し、個人指導を受けて進める。 14～15. ケーススタディの実際③ (1) 考察の検討 			<p>講義</p> <p>グループワーク</p> <p>講義</p> <p>グループワーク</p>
評価	<p>方法：ケーススタディ</p> <p>配点：ケーススタディ100点</p>		
テキスト	<p>ナーシンググラフィカ基礎看護学④ 看護研究 メディカ出版</p> <p>看護理論 看護理論21の理解と実践への応用 南江堂</p>		

科目名	単位数	開講期	担当講師
看護の統合V	1単位 (30時間)	3年次 後期	専任教員
<p><ねらい></p> <p>様々な健康課題をもつ対象に対し根拠に基づき看護が実践できるよう、これまで知識・技術・態度を習得してきた。これらの既習の知識・技術・態度を統合し、看護実践能力の基盤を養うことをねらいとする。そして、自分の技術力の評価から自己課題を明らかにし、卒業時まで主体的に課題解決に取り組めるようにする。また、評価を通して、看護実践における倫理の重要性に気づけるようにする。</p> <p><到達目標></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 紙上事例の患者の状態をアセスメントし、必要な看護が理解できる。 2. 紙上事例の患者の状態に応じた援助が実施できる。 3. 技術力を総合的に批評し、看護実践能力の向上にむけて自己課題と対策を明らかにする。 			
授業計画			学習方法
1～2. 看護・看護技術のリフレクション 3～4. 紙上事例の看護過程 (1) アセスメント (2) 計画立案 5～6. 患者の状態に合わせた援助の実施と評価① 7～8. 看護技術の構成要素、臨床判断 9～10. 患者の状態に合わせた援助の実施と評価② 11～14. 技術力評価、自己課題の整理 15. 看護観の明確化			講義・演習 演習
評価	方法：レポート・技術試験 配点：レポート 40 点、技術試験 60 点		
テキスト	系統看護学講座 基礎看護学①看護学概論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学②基礎看護技術 I 医学書院		